

平成 26 年度

邦楽地域活性化事業
報告書



一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for
Regional Art-Activities

■はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成や、公立文化施設の活性化を図るための各種事業を実施しています。

これらの事業の一環として地域創造では、平成21年度のモデル事業実施を経て、平成22年度より、邦楽地域活性化事業に取り組んでいます。

邦楽地域活性化事業は、地域創造がこれまで取り組んできた公共ホールを拠点とした地域交流プログラムに関するノウハウと、日本の伝統文化への取り組みを踏まえ、地域創造と都道府県や政令指定都市の中核ホールが共同で、研修会や域内市町村等でのアウトリーチ、コンサートなどの事業を実施し、地域に邦楽の特色を活かしたアウトリーチの手法および事業展開のノウハウを蓄積することを目指すものです。

この報告書は、公益財団法人富山県文化振興財団及び公益財団法人高岡市民文化振興事業団、公益財団法人射水市文化振興財団、公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団との共催により実施された平成26年度邦楽地域活性化事業の内容を取りまとめたものです。

報告書の中では、主催団体および市町村ホールの担当者による成果や反省点・課題等についての報告をケーススタディとして掲載しました。また、コーディネーターによるレポートと邦楽事業に関するコラム、研修会やアウトリーチ、コンサートに参加された方々のアンケート結果を掲載しました。

全国の地方公共団体ならびに公共ホールのみなさまにおかれましては、ぜひ邦楽に関する地域交流プログラムも含めた自主事業にお取り組みいただき、本報告書をご活用いただければ幸いです。

一般財団法人地域創造

目次

I. 邦楽地域活性化事業概要	1	
1. 事業の仕組み	2	
2. 事業の流れ	3	
II. 平成26年度 事業記録	5	
1. 事業体制	6	
2. 演奏家プロフィール	7	
3. 全体スケジュール	8	
4. 全体研修会	9	
5. 現地下見	10	
6. 手法開発研修会	11	
7. 地域交流プログラム	13	
8. 総括公演プログラム	16	
III. 平成26年度 事業報告	19	
1. 主催団体報告		
ディレクター	山本 広志（公益財団法人富山県文化振興財団）	20
担当者	坂野 弘幸（公益財団法人富山県文化振興財団）	21
2. チーフコーディネーター総評	児玉 真	22
3. 地域交流プログラム報告		
①砺波市		
コーディネーター	本田 恵介	24
公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団	佐伯 宇一	25
②高岡市		
コーディネーター	谷垣内 和子	26
公益財団法人高岡市民文化振興事業団	堀内 美里	27
③射水市		
コーディネーター	米澤 浩	28
公益財団法人射水市文化振興財団	大井 進	29
4. 参加者の声（アンケート結果）		
①全体研修会		30
②地域交流プログラム		31
③総括公演プログラム		34
IV. 平成26年度 事業資料	37	
平成26年度邦楽地域活性化事業 総括公演チラシ	38	
平成26年度邦楽地域活性化事業 総括公演パンフレット	40	
「平成26年度邦楽地域活性化事業 実施要綱」	44	

コラム

●伝統音楽を、公共ホールの普通の「引き出し」に！	[伊藤 由貴子]	4
●お楽しみはこれからだ！	[米澤 浩]	18
●現代箏曲の一断面～新しい箏の仲間たち	[谷垣内 和子]	36

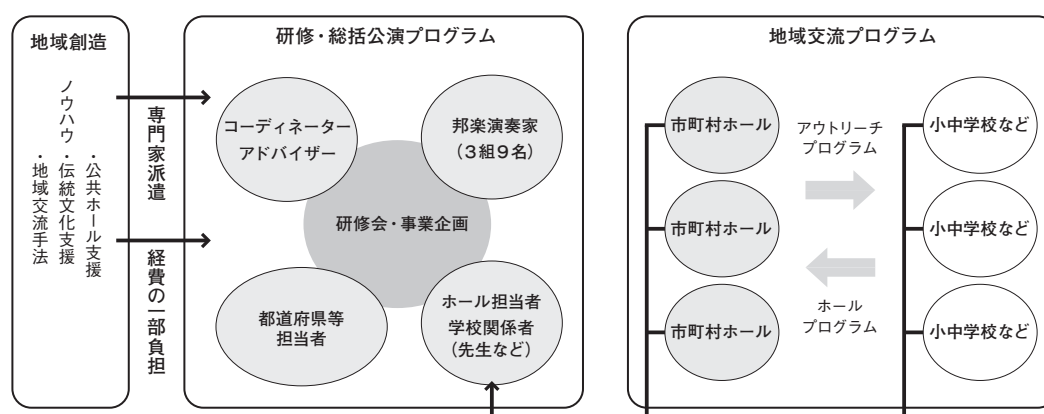
I . 邦楽地域活性化事業概要

1 事業の仕組み

都道府県・政令指定都市等と地域創造の共催で、公共ホールを中心に若手邦楽演奏家による各種プログラムを実施します。

実施都道府県内で選ばれた市町村ホールや、政令指定都市内の場合は管内の複数のホールが、それぞれ地元の学校向けに、アウトリーチと呼ばれる1クラス単位の教室での鑑賞型事業や、ホールでのワークショップなどの地域交流プログラムを行います。都道府県・政令指定都市等は、事業の実施に向けて様々な研修会などを開催しながら事業を統括し、最後に全演奏家が出演するコンサートを開催します。

地域創造からは、演奏家に加え地域の芸術活動や企画制作に詳しいコーディネーター・アドバイザーなどの専門家を派遣し、ノウハウの提供や事業全般のサポートを行います。



■事業の目指すもの・期待される効果

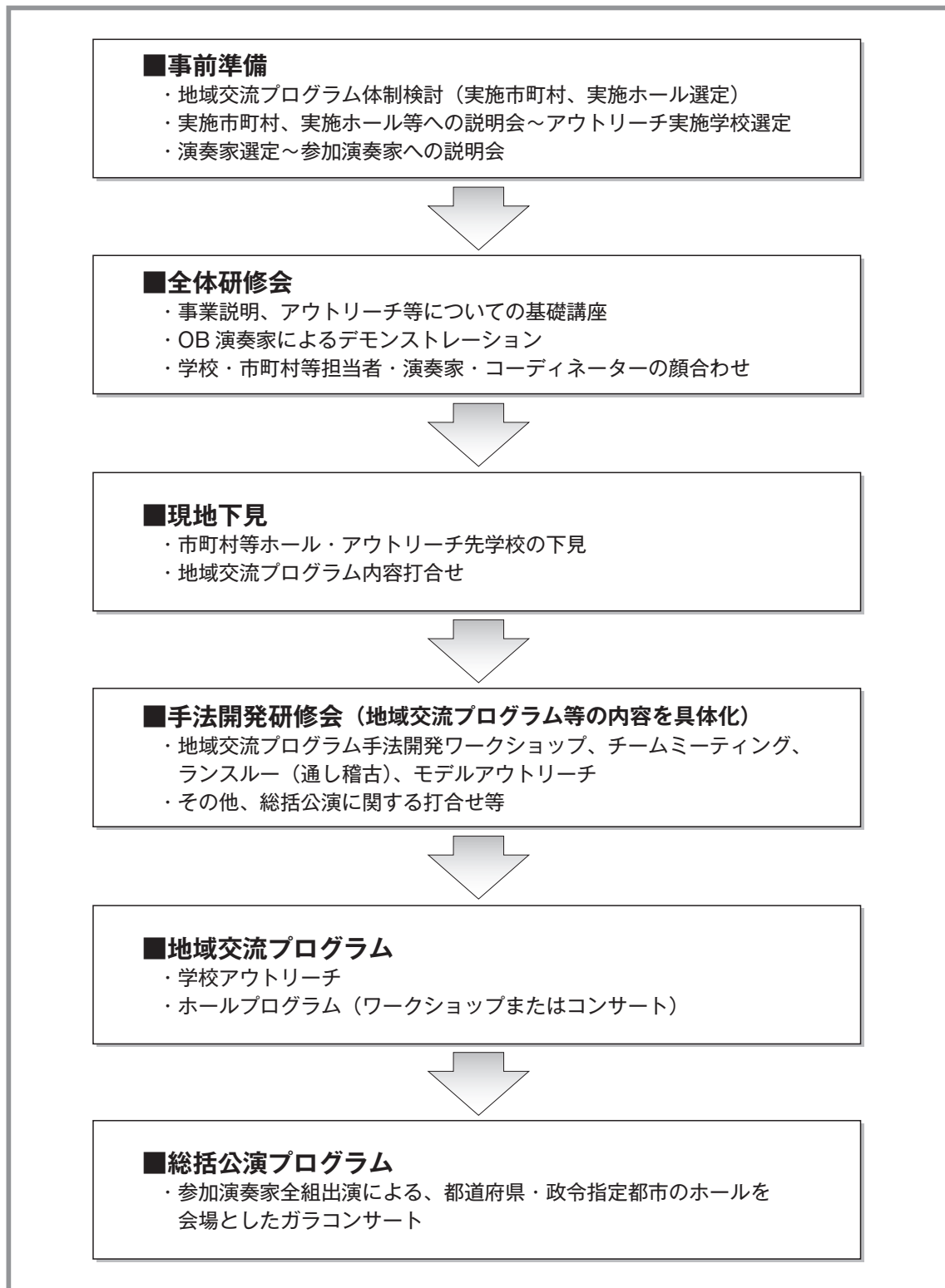
- 公共ホールが邦楽事業に関するノウハウを獲得することで、学校等地域からの邦楽に関するニーズに応えられるようになることを目指します。また、都道府県等の公共ホールを核とした市町村立ホールのネットワークづくりや人材育成、邦楽を通じた学校と公共ホールの連携促進につなげます。
- 地域の子どもたちに日本の伝統楽器や邦楽のすばらしさを伝え、同時に、邦楽の演奏家や指導者、教育関係者、ホール職員にアウトリーチをはじめとした地域交流プログラムの手法を獲得してもらうことにより、地域での邦楽への取り組みの幅を広げ、邦楽の継承発展を目指します。

■経費負担

- (1) 地域創造が直接負担する経費
演奏家の事業参加に係る報酬（出演料、謝金等を含む）、派遣に係る交通費（現地移動費を除く）、宿泊費、日当、派遣に係る傷害保険料。その他演奏家に対する現地までの楽器運搬費の補助。
- (2) 実施団体からの請求にもとづき、地域創造が負担する経費
 - ① 都道府県・政令指定都市等が支出した研修会、総括公演等実施に係る経費のうち対象とするものにつき、合計450,000円まで
 - ② 市町村等が支出した地域交流プログラム実施に係る経費のうち対象とするものにつき、1団体あたり50,000円まで
- (3) 地方公共団体等が負担する経費
上記以外の経費。具体的には、演奏家の現地移動費及び現地での楽器の輸送（宿泊先から学校・ホール間など）に係る経費等は各実施団体の負担となっています。

※P.44「平成26年度邦楽地域活性化事業 実施要綱」参照

2 事業の流れ



◎伝統音楽を、公共ホールの普通の「引き出し」に！

平成26年度アドバイザー

公益財団法人神奈川芸術文化財団 神奈川県立音楽堂館長・プロデューサー 伊藤 由貴子

事業名が「邦楽地域活性化事業」なので誠に申し上げにくいのだが、私自身は日本の音楽全体を指す時、「邦楽」という言葉ではなく、西洋クラシック音楽に対して「日本の伝統音楽」、洋楽器に対して「和楽器」或いは「伝統楽器」というように、少々こだわった言葉づかいをしているので、以下そのように使わせていただく。私が企画の対象とするのは、箏、尺八、三味線による音楽（三曲）、歌舞伎で使われる音楽、雅楽、聲明、そして正倉院復元楽器に至るまでの、さまざまな分野の「日本の音」である。

さて、まずは素朴な疑問から。日本の公共ホールが主催する「音楽」公演の内容は、なぜオーケストラ、ピアノやヴァイオリン等の室内楽、オペラや合唱といった西洋のクラシック音楽ばかりなのだろう。日本の伝統音楽は、普通に「音楽」ではないの？

時代は21世紀。私たちは、さまざまな時代や地域の多様多彩な芸術文化を、その気になれば誰でも等しく享受できる、豊かな時代を生きているはず。そしてホールや劇場は、何のメディアも仲介せずに、それらを直接人間から人間へ伝え、舞台と客席を包み込む共感を生みだしうる特別な場所だ。特に次代を担う子どもたちにとって、この多様多彩な表現と、その主体である人間に直接に触れる経験は、想像力と創造力を育むために大変重要だろう。だが、子どもたちが公共ホールで音楽を体験するに至るには、まずは、教師や保護者といった、子どもたちの行動に選択権を発揮する大人たちを動かさなければならない。ゆえに、大人たちにとって身近な地域の公共ホールに、伝統音楽が普通の「引き出し」として備わることは、音楽の世界を広がりのあるものにするために不可欠のことだと思う。

かくいう私も、神奈川県立音楽堂で模索を続けて来た。音楽堂では、ホールの規模（約1,000席）に合わせ、比較的大型で見た目にも華やかな「雅楽」や「聲明」を日本のクラシック音楽として紹介する取り組みをしている。上演に際しては、単に千年以上受け継がれてきた古典曲だけでなく、現代の若い作曲家に委嘱した新作を共にプログラムに組み込んで、現代の可能性も感じてもらえるよう努め、一方で、時には小学校へのアウトリーチもおこない、本公演では演奏家や作曲家のトークを交え、客席参加コーナーを導入し、照明の演出を入れ…。つまり手法的には西洋クラシック音楽における普及手法と大差はない。心がけていることは、伝統音楽だから特別なもの、と、ホールの側で壁を作ってしまわないことと、演奏家と出来るだけフランクなコミュニケーションを重ねて行くことだ。

とはいえ、課題はいろいろある。ホール側にとっては、例えば、出演料や楽器運搬費等、費用が始めはよく見えないこと。音響…多くはPAについての懸案が発生すること等々。

一方、演奏家の側でも、ホールの規模に合わせたプログラムをどう組むか、編成や配置、音響はベストなのか、やはり不安や戸惑いがあるだろう。でも、これを機に、演奏家一人ひとりが、伝統音楽の世界での常識を見直し、何は譲り、何は絶対に譲れないか。また、同じホールで、普段は西洋音楽、つまりクラシック・コンサートを鑑賞している人々を相手に、何を魅力としてアピールしていくのかといった事を明確にしていけるとしたら、今後の伝統音楽の在り方を考えて行く上でも有意義ではないか。それをホールの制作者と共有しつつ、その空間を使いこなす思いきった知恵を出していただけたら嬉しい。

めざすところは、その日、ホールでこの音楽と初めて出会う人の心を揺さぶること。思わず席から身を乗り出させたり、うっとりさせたり、不覚にも涙させたりすること。文化や歴史のお勉強ではなく、「音楽」として楽しめる公演を創ることではないか。

ホール空間に適さない楽器やジャンルもあるかもしれない。しかし、まずできることから探り、そのノウハウをホールも演奏家も蓄積していくことが大事だと思う。日本で「馴染みがない」とされたオーケストラ音楽を、ホールやオーケストラ団体が懸命になって、さまざまな楽しく創造的な企画を練ってきたように、自由な発想で、公共ホールというハコを活かした、伝統音楽の普及振興を実現させたい。可能性は無限に広がっていると思うのだ。

Ⅱ. 平成26年度 事業記録

1 事業体制

- ◎主催団体：公益財団法人富山県文化振興財団、公益財団法人高岡市民文化振興事業団、
公益財団法人射水市文化振興財団、公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団
- ◎共催団体：一般財団法人地域創造、富山県、高岡市、高岡市教育委員会、射水市、射水市教育委員会、
砺波市、砺波市教育委員会、北日本新聞社
- ◎実施日程：平成26年8月19日～平成27年2月1日
- ◎ディレクター [主催団体の責任者]
山本 広志 (公益財団法人富山県文化振興財団 富山県高岡文化ホール館長)
- ◎チーフコーディネーター [地域創造の派遣する専門家]
児玉 真 (いわき芸術文化交流館アリオス チーフ・プログラム・オフィサー、地域創造 プロデューサー)
- ◎コーディネーター [地域創造の派遣する専門家]
本田 恵介 (公益財団法人熊本県立劇場 事務局次長兼企画事業課長) …砺波市担当
谷垣内 和子 (公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部企画室長) …高岡市担当
米澤 浩 (邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団 副代表) …射水市担当
- ◎アドバイザー [地域創造の派遣する専門家]
伊藤 由貴子 (公益財団法人神奈川芸術文化財団 神奈川県立音楽堂館長・プロデューサー)
- ◎演奏家
黒川 真理 (箏曲)、平田 紀子 (箏曲)、石田 真奈美 (箏曲) …砺波市担当
花岡 操聖 (箏曲)、荒井 美帆 (箏曲)、内藤 美和 (箏曲) …高岡市担当
吉澤 延隆 (箏曲)、マイン時田 深山 (箏曲)、中島 裕康 (箏曲) …射水市担当

■プログラム一覧

◎研修プログラム

実施団体	内容	実施日	会場
公益財団法人富山県文化振興財団	全体研修会	8月19日(火)	富山県高岡文化ホール (49名)
	手法開発研修会	9月29日(月) ～10月2日(木)	富山県高岡文化ホール (21名) 射水市放生津小学校(モデルアウトリーチ) (111名)

◎地域交流プログラム

実施団体	担当演奏家等	内容	実施日	学校、ホール名	参加者数
砺波市	黒川 真理 平田 紀子 石田 真奈美 <コーディネーター> 本田 恵介	アウトリーチ①	11月20日(木)	出町小学校	41名
		アウトリーチ②	11月20日(木)	出町小学校	40名
		アウトリーチ③	11月21日(金)	鷹栖小学校	33名
		アウトリーチ④	11月21日(金)	鷹栖小学校	24名
		ワークショップ	11月22日(土)	砺波市文化会館	16名
高岡市	花岡 操聖 荒井 美帆 内藤 美和 <コーディネーター> 谷垣内 和子	アウトリーチ①	11月25日(火)	定塚小学校	38名
		アウトリーチ②	11月25日(火)	定塚小学校	38名
		アウトリーチ③	11月26日(水)	定塚小学校	34名
		アウトリーチ④	11月26日(水)	定塚小学校	34名
		ワークショップ	11月27日(木)	高岡市民会館	23名
射水市	吉澤 延隆 マイン時田 深山 中島 裕康 <コーディネーター> 米澤 浩	アウトリーチ①	12月11日(木)	東明小学校	30名
		アウトリーチ②	12月11日(木)	東明小学校	32名
		アウトリーチ③	12月12日(金)	塚原小学校	25名
		アウトリーチ④	12月12日(金)	塚原小学校	26名
		ワークショップ	12月13日(土)	高周波文化ホール	23名

・アウトリーチプログラム参加者数 506名 (モデルアウトリーチ111名、地域交流プログラムアウトリーチ395名)

・ホールプログラム参加者数 62名

◎総括公演プログラム

実施団体	内容	実施日	会場	入場者数
公益財団法人富山県文化振興財団	ガラコンサート	2月1日(日)	富山県高岡文化ホール	428名

2 演奏家プロフィール

【砺波市担当】

◎黒川 真理

富山県出身。1999年東京芸術大学を経て同大学院修了。2002年文化庁新進芸術家国内研修員として人間国宝藤井久仁江に九州系地歌を師事。現在、深海さとみに箏・三絃を師事。2006年「平成18年度北日本新聞芸術選奨」受賞、2007年「とやま賞」受賞、2008年第14回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール「最優秀賞・文部科学大臣奨励賞」受賞。2008年度（公財）日本伝統文化財団主催第9回邦楽技能者新人オーディション合格、ピクチャーよりCD発売。主な活動として、2006年国立劇場主催「明日を担う新進の舞踊・邦楽鑑賞会」、2008年NHK教育テレビ「芸能花舞台今輝く若手たち」、2012年NHKEテレ「にっぽんの芸能」に出演。その他、海外公演多数。黒川邦楽学院院長。生田流正派邦楽会大師範（雅号 雅瞳）。

◎平田 紀子

大阪府出身。深海さとみに師事。2004年東京芸術大学卒業。2008年宮城道雄記念コンクール第1位受賞。2011年第18回賢順記念くまもと全国箏曲コンクール最高位「賢順賞」受賞。主な活動として、NHK Eテレ「にっぽんの芸能 芸能百花繚乱」に独奏で出演。NHK Eテレ「にっぽんの芸能」テーマ音楽、NHKラジオ第一「新日曜名作座」劇中音楽などの録音に携わる。CD「合唱 harmonia ensemble 3rd」「深海さとみ 二曲一双」「端唄根岸悦子V」などに参加。現在は「邦楽四重奏団」の他、日本作曲家協会や作曲家グループの作品発表会での演奏を行う他、箏と箏による「Duo Nano」を2013年ベルリンのコンサートで活動を始め、2015年より日本でのコンサートを開催予定。

◎石田 真奈美

千葉県出身。幼少より箏の手ほどきを祖母より受け、深海さとみに師事。2006年東京芸術大学卒業。卒業時にアカンサス音楽賞を受賞。皇居桃華楽堂にて御前演奏をつとめる。2010年第16回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞。2013年第20回賢順記念くまもと全国箏曲コンクール銅賞。主な活動として、千葉県文化振興財団主催「第28回 若い芽のaコンサート」にて、ソリストとしてニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と共演。NHKテレビ・ラジオ出演。深海さとみCD「二曲一双」、煌★バンドCD「和楽器 DE MUSIC FOUNTAIN」、スマホアプリ iOS版「戦国X (クロス)」レコーディング参加。(公社)日本三曲協会・宮城会・森の会・深海邦楽会会員、和楽器オーケストラあいおい、和楽団「煌」メンバー。

【高岡市担当】

◎花岡 操聖

東京都出身。3歳より箏の手ほどきを母より受け、8歳より箏・二十絃箏（1991年以降は二十五絃箏）を二代 野坂操壽に師事。1998年より一年間、地歌三絃を深海さとみに師事。2003年東京芸術大学卒業。在学中、宮城賞受賞。2007年桐朋学園芸術短期大学専攻科研究生修了。第2回東京邦楽コンクール、二十五絃箏独奏にて第三位。2012年度文化庁新進芸術家育成事業研修生として、地歌三絃を人間国宝・富山清琴、発声・歌唱を山田流箏曲家の岸辺美千賀に師事。これまでリサイタルを2回開催。現在、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。生田流箏曲松の実會師範。(公社)日本三曲協会、生田流協会、森の会、桐の響各会員。虹「KOU」メンバー。

◎荒井 美帆

東京都出身。7歳より箏・二十五絃箏・三絃を佐藤里美に師事。NHK邦楽技能者育成会第42期卒。和楽器・洋楽器はじめ演劇・ダンス等、様々な分野との表現活動を展開。薩摩琵琶とのDUO活動にて第1回桂座音楽賞受賞。2008年第2回和の響グループコンテスト最優秀賞受賞。作曲では「野坂操壽×沢井一恵ふたりのマエストロ為の作品公募」3位入賞し、全国ツアーにて演奏される。同年第2回琴によるポップスコンクール優秀賞、第4回同コンクール家庭音楽会賞受賞。主な活動として、NHK教育テレビ「芸能花舞台」他、メディア出演多数。自治体、文化庁主催の和楽器体験講座やワークショップの講師を務める等、和楽器の普及活動や後進の指導に力を入れている。生田流箏曲松の実會師範、東京都立晴海総合高校音楽科特別非常勤講師。

◎内藤 美和

埼玉県出身。6才より箏の手ほどきを母より受ける。2006年桐朋学園芸術短期大学芸術科日本音楽専修卒業。同大学専攻科研究生、特別研究生修了。箏、十七絃、二十五絃箏を二代野坂操壽、滝田美智子に師事。

2009年第6回東京邦楽コンクール第2位。2012年第7回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門第1位・日本ルーマニア音楽協会理事賞受賞。現在、生田流箏曲松の実會師範、ヤマノミュージックサロン銀座店講師、(公社)日本三曲協会、生田流協会、草加市演奏家協会、東京国際芸術協会、桐の響各会員。虹「KOU」、箏ユニット「華紅弥」、和洋バンド「月詠-TSUKUYOMI」、各メンバー。

【射水市担当】

◎吉澤 延隆

栃木県出身。7歳より和久文字のもとで箏を始める。2007年東海大学大学院芸術学研究科修士課程修了。在学中に、文化庁新進芸術家国内研修制度研修員に採用。2008年第15回賢順記念全国箏曲コンクール最高賞「賢順賞」受賞。2009年宇都宮市「うつのみや市民賞」受賞。主な活動として、2005年アジアの伝統音楽に関する国際会議とシンポジウムに参加し、韓国、中国、タイ、ベトナム、インド、カザフスタンの演奏家との合同公演実施。近年では、神奈川国際芸術フェスティバル、ハダスフィールド現代音楽祭（イギリス）といった音楽祭での公演の他、来場者参加型コンサートの企画を行うなど、楽器の魅力を伝える活動も行っている。

◎マクイーン時田 深山

オーストラリア、メルボルン生まれ。箏を小田村さつき、沢井一恵に師事。NHK邦楽技能者育成会第55期首席卒業。東京芸術大学院音楽研究科修士課程修了。オーストラリア各地でリサイタル開催し、和・洋・民族楽器と共演。Melbourne International Arts Festivalやシドニーオペラハウスなどで演奏。2008年に日本に活動の拠点を移し、現在、様々な現代音楽を演奏する他、自作曲や編曲、即興に取り組む。横浜インターナショナルスクールで箏を教え、学校公演を行い、今を生きる楽器としての箏の魅力を伝えようとする。第7回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門1位受賞。朝日新聞社、日本現代音楽協会主催現代音楽演奏コンクール「競奏X」第2位入賞。沢井箏曲院教師。

◎中島 裕康

茨城県出身。生田流箏曲、地唄三味線を樋口雅礼瑤、浜根由香に師事。2012年東京芸術大学卒業。大学卒業時には皇居桃華楽堂にて御前演奏をつとめる。同年第38回茨城県新人演奏会新人賞受賞。2013年第20回賢順記念全国箏曲コンクール最高位「賢順賞」受賞。NHK Eテレ「にっぽんの芸能」、NHK-FM「邦楽のひととき」に箏独奏で出演。CD「柴田南雄とその時代 第二期」「郡愛子が歌う郡司敦の世界～四季」録音。伝統的な音楽に限らず、現代邦楽や新作の委嘱初演を多数務めながら「箏の音楽の真価」を探求する。正派邦楽会師範（雅号：中島雅裕）、取手カルチャーセンター講師。森の会会員。同声会茨城県支部所属。邦楽四重奏団、アンサンブル室町、各メンバー。

3 平成26年度邦楽地域活性化事業全体スケジュール

項目	平成26年度（富山県） 実施スケジュール		出席者
<演奏家面談会>	2014年2月11日～12日		候補演奏家、県ディレクター、 チーフコーディネーター、 地域創造担当者
<市町村ホール担当者への事業説明会> 内容： ・事業の体制、進め方について ・各プログラム内容について ・実施団体担当者の実務について	2014年4月17日		県ディレクター、県ホール担当者、 市町村ホール担当者、チーフコーディネーター、 地域創造担当者
<コーディネーター会議> 内容： ・本年度の事業体制について （演奏家のチーム編成および担当地域、 担当コーディネーターなど） ・地域交流プログラム実施団体の調整状況 ・今後のスケジュール ・各プログラム内容について	2014年6月18日		県ディレクター、県ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 地域創造担当者
<演奏家への事業説明会> 内容： ・自己紹介 ・事業の体制、進め方について ・各プログラム内容について ・事務説明（諸手続等について）	2014年7月22日		演奏家、 県ディレクター、県ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 地域創造担当者
<全体研修会> ※現地地下見も含む 内容：8月19日 ・平成26年度事業の概要について ・チーフコーディネーターレクチャー ・事業のイメージについて （OB演奏家によるORデモンストレーション） ・コーディネーター座談会 内容：8月20日 ・学校と市町村ホールの下見、打合せ	2014年8月19日～20日		チーフコーディネーター、コーディネーター、 県ディレクター、県ホール担当者、 演奏家、市町村ホール担当者、学校関係者、 県内邦楽関係者、ほか外部参加者（研修会のみ）、 地域創造担当者
<チーム会議> 内容：地域交流プログラム案の作成	黒川チーム	2014年9月26日	演奏家、 コーディネーター、 地域創造担当者
	花岡チーム	2014年8月15日	
	吉澤チーム	2014年8月25日	
<手法開発研修会> 内容：開講式、地域交流プログラム手法開発 ワークショップ、チームミーティング、 総括公演打合せ、ランスルー（通し稽古）、 モデルアウトリーチ、閉講式、交流会	2014年9月29日～10月2日		演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 県ディレクター、県ホール担当者、 市町村ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者
<地域交流プログラム> 内容：アウトリーチプログラム（学校：4クラス） ◎ホールプログラム（ワークショップ）	黒川チーム （砺波市）	2014年11月20日 2014年11月21日 ◎2014年11月22日	演奏家、 コーディネーター、 県ディレクター、県ホール担当者、 市町村ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者
	花岡チーム （高岡市）	2014年11月25日 2014年11月26日 ◎2014年11月27日	
	吉澤チーム （射水市）	2014年12月11日 2014年12月12日 ◎2014年12月13日	
<総括公演プログラム合同練習> 内容：参加演奏家全組による合同演奏曲練習 総括公演プログラムにかかる打合せ	2015年1月26日		演奏家、コーディネーター 地域創造担当者
<総括公演プログラム> 内容：参加演奏家全組によるガラ・コンサート	2015年1月31日（リハーサル） 2015年2月1日（本番）		演奏家、 県ディレクター、県ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 地域創造担当者
<総括会議> 内容：事業内容の検証（評価と提案）	2015年2月9日		県ディレクター、県ホール担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 地域創造担当者

4 全体研修会

全体研修会は、ホール担当者、行政担当者、アウトリーチ先の学校関係者と、コーディネーター、演奏家等、事業の関係者が全員集まって行うキックオフミーティングです。

今年度は、事業の関係者のみならず、邦楽分野のアウトリーチ・ワークショップ事業などに関心のある公共ホールや文化行政担当者、地域の邦楽関係者にも参加を募り、手法開発研修会や総括公演プログラムの会場となる富山県高岡文化ホールで行われました。

研修会の内容は、本事業の趣旨や流れ、準備作業内容の確認のほか、チーフコーディネーターの児玉真さんによるレクチャー、前年度参加アーティストによるアウトリーチデモンストレーション、本事業に参加するコーディネーターの座談会で構成されました。

邦楽のアウトリーチやワークショップの可能性についての理論的な講義の後は、参加者を生徒に見立てたアウトリーチデモンストレーションで、アウトリーチの具体的なイメージをつかみました。また、本事業に参加するコーディネーターによる各プログラムの意義や取り組み方、その効果など実践的な話により、参加者はアウトリーチや本事業への理解をより深めました。

- 1 日 時 平成26年 8月19日（火） 13：00～16：30
- 2 会 場 富山県高岡文化ホール 小ホール
- 3 出席者 富山県文化振興財団12人、市町ホール担当者 6人、学校関係者 5人、演奏家 9人、チーフコーディネーター 1人、コーディネーター 3人、地域創造 1人 外部参加者等12人

4 スケジュール

◎13：00～14：15 第一部

主催者挨拶 公益財団法人富山県文化振興財団 専務理事 林 俊信

1. 事業概要説明 地域創造 副参事 井上 裕士
2. チーフコーディネーターレクチャー 地域創造プロデューサー 児玉 真

◎14：30～16：30 第二部

3. アウトリーチデモンストレーション

平成25年度参加演奏家：岡村 慎太郎、山形 光、黒田 鈴尊（静鏡）（生田流箏曲）

4. 質疑応答など
5. コーディネーター座談会



コーディネーター座談会



アウトリーチデモンストレーション

5 現地下見

現地下見は、ホール担当者と演奏家、コーディネーターが、手法開発研修会での地域交流プログラムの内容づくりに向けて、すべてのアウトリーチ実施校と市町村等ホールの視察と現地打合せを行うものです。

学校下見では、演奏家とコーディネーターが教室の広さや使える設備を最終確認するとともに、学校関係者との現地打合せを行います。また、ホール下見では、コンサート会場については舞台関係や進行の確認を、ワークショップ会場については広さにあわせて体験用の楽器の数や参加人数の上限などを決め、手法開発研修会でのプログラムづくりに反映させます。

今年度の現地下見は、全体研修会の翌日にスケジュールを組み、できるだけ多くの演奏家が参加できるようにすることで、担当する市での地域交流プログラムのイメージ共有に努めました。

◎高岡市

・ 8月20日…定塚小学校
高岡市民会館

◎射水市

・ 8月20日…東明小学校
塚原小学校
高周波文化ホール

◎砺波市

・ 8月20日…出町小学校
鷹栖小学校
砺波市文化会館



音楽室の確認（射水市）



音楽室の確認（砺波市）



学校打合せ（砺波市）



ホールの確認（射水市）

6 手法開発研修会

手法開発研修会は、コーディネーターと演奏家がホール担当者と共に、地域交流プログラムの内容について、現地下見で確認した市町村等ホールや学校の状況とニーズを踏まえ、合宿形式で集中的にプログラムづくりを行うものです。

今年度は3泊4日の日程で、富山県高岡文化ホールを会場に実施しました。

まず、演奏家とコーディネーターは、富山県文化振興財団および地域交流プログラムの実施団体となる3市のホール担当者とともに、担当する市毎のチームに分かれ、地域交流プログラムで訪れる小学校でのアウトリーチの構成を緻密に練り上げる作業を行いました。中間発表やランスルーでは、関係者全員で意見を出し合い、内容をブラッシュアップしました。

最終日には射水市内の放生津小学校でモデルアウトリーチを実施し、研修の成果を確かめました。

1 日 時 平成26年9月29日(月)～10月2日(木)

2 会 場 富山県高岡文化ホール

3 スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目
8:00	会場A：第4会議室、会場B：練習室（チーム別・3室）、会場C：小ホールにて実施			
9:00		チーム研修 (会場B)	チーム研修 (会場B)	放生津小 アウトリーチ準備 9:00～10:25
10:00				モデルアウトリーチ① 10:25～11:10
11:00				教室移動
12:00				モデルアウトリーチ② 11:30～12:15
13:00		昼食	昼食	昼食・転換
14:00		チーム研修 (会場B)	ランスルー準備	
15:00	開講式& オリエンテーション (会場A)	中間発表① 14:00～15:00 (会場B)	ランスルー① 13:30～14:40 (会場C)	モデルアウトリーチ③ 13:50～14:35
16:00	楽器梱包・研修準備		休憩（20分）	撤収・移動
17:00	チーム研修 (会場B)	中間発表② 15:30～16:30 (会場B)	ランスルー② 15:00～16:10 (会場C)	
18:00			休憩（20分）	反省会&閉講式 15:45～16:45 (会場C)
19:00		中間発表③ 17:00～18:00 (会場B)	ランスルー③ 16:30～17:40 (会場C)	楽器梱包・発送作業
20:00	撤収		休憩（20分）	解散
		全体ミーティング(総括公演等) 18:30～19:30 (会場A)	チームミーティング 18:00～19:30 (会場B)	
		撤収	撤収	

[Ⅱ. 平成26年度 事業記録]



研修の様子



研修の様子



ランスルーの様子



ランスルーの様子

【射水市立放生津小学校モデルアウトリーチ】

実施日	場所	演奏家	時間	クラス	参加者数
2014/10/2 (木)	音楽室	花岡操聖、荒井美帆、内藤美和	3校時目	4年1組	31名
	視聴覚教室	黒川真理、平田紀子、石田真奈美	4校時目	5年1組・2組	44名
		吉澤延隆、マウーン時田深山、中島裕康	5校時目	6年1組	36名



モデルアウトリーチ (4年1組)



モデルアウトリーチ (5年1組・2組)

7 地域交流プログラム 砺波市

【アウトリーチプログラム】

黒川チームは、箏曲の作曲者の多くが優れた箏の演奏家でもあったことに焦点を当て、名演奏家でもある沢井忠夫、宮城道雄、深海さとみの3人の箏曲家の作品を軸に、彼らが箏にかけた「情熱」と箏曲の魅力を子どもたちに体感してもらいました。まず、沢井忠夫が空を飛ぶ鳥への憧れから作曲した『鳥のように』を演奏。次に、宮城道雄の名曲『水の変態』では歌詞を解説し、水が雨・雪・霰に変わる様子を表現しました。続いて、女性の気持ちを歌った曲を数多く作曲した深海さとみに

よる『雪むすめ』で、機を織る少女の物語を感情豊かに演奏。最後の沢井忠夫『五節の舞』では、作曲者の想いと演奏家の情熱を生徒に伝え、迫力ある演奏で締めくくりました。

実施団体：公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団
担 当 者：佐伯 宇一
演 奏 家：黒川真理、平田紀子、石田真奈美
コーディネーター：本田恵介

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日 時	11/20(木) 4校時目	11/20(木) 5校時目	11/21(金) 3校時目	11/21(金) 5校時目
学校名	出町小学校	出町小学校	鷹栖小学校	鷹栖小学校
クラス	6年1組	6年2組	6年1組	5年1組
会 場	第2音楽室	第2音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	41人	40人	33人	24人



【ホールプログラム(ワークショップ)】

ワークショップは、はじめて箏にふれる方を対象に、富山県の民謡『こきりこ節』を箏で弾いてみるというテーマで実施。まず、講師の模範演奏を聴いたのち、座り方から始まり、爪の当て方から基本奏法までと、特殊奏法の例も紹介しました。奏法に慣れてきたところで、『こきりこ節』を糸の番号で歌い、弾くときのイメージをつかみました。各自、糸の番号を口ずさみながら練習を繰り返した後、高音、低音の組に分かれて合奏練習。続いて各組で、実際に『こきりこ節』の歌詞

を歌いながら、合奏を行いました。最後は、ミニコンサートを開催。講師3人がアレンジした『こきりこ節』の変奏曲と『五節の舞』で参加者を魅了しました。

コース名：はじめての“お箏”体験in砺波
会 場：砺波市文化会館 大ホール
実 施 日：2014/11/22(土)
時 間：13:00~14:30
参加人数：16人



7 地域交流プログラム 高岡市

【アウトリーチプログラム】

高岡市チームは、箏から二十五絃箏まで駆使し、時代を越えた「箏のかっこ良さ」をテーマとしました。オープニングに、高岡市出身の藤子・F・不二雄にちなんで、自分たちで編曲したドラえもんテーマソングの箏バージョンを披露。続いて、八橋検校『みだれ』について、作曲された時代を地元高岡に縁のある前田利長公のゆるキャラ「利長くん」を用いてその頃の曲であることを説明したほか、箏に関するクイズをパネルで出題し、子どもたちの興味を引きつけました。また、四季を

音で現した沢井忠夫『百花譜』と、伊福部昭『琵琶行』で情景描写を感じてもらい、ラストは、田中修一『鼎坐樂』で二十五絃箏の表現力を印象づけました。

実施団体：公益財団法人高岡市民文化振興事業団
 担当者：堀内美里
 演奏家：花岡操聖、荒井美帆、内藤美和
 コーディネーター：谷垣内和子

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日時	11/25(火) 4校時目	11/25(火) 5校時目	11/26(水) 4校時目	11/26(水) 5校時目
学校名	定塚小学校	定塚小学校	定塚小学校	定塚小学校
クラス	6年2組	6年1組	5年2組	5年1組
会場	音楽室	音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	38人	38人	34人	34人



【ホールプログラム(ワークショップ)】

ワークショップは、初心者を対象に、富山県の民謡『こきりこ節』で箏を体験してもらうプログラムでした。また、「こきりこささら」を手に、日本民謡研究会富山県支部華の会師範の筏井豊華翔さんも一緒に参加いただきました。始めに、箏の部位の名称や柱、爪、手の置き方、座り方などについて説明した後、早速糸の番号を声に出しながら練習。メロディ担当、伴奏担当に分かれて合奏の練習を繰り返し、参加者を半分に分け、奏者が舞台上、観客が客席に移動しての発表会形式に

より、民謡「こきりこささら」とコラボレーションしながら練習の成果を披露しました。最後は、講師が参加者の成果発表に応えるかたちで、沢井比河流『夢の輪』を演奏しました。

コース名：はじめての“お箏”体験in高岡
 会場：高岡市民会館
 実施日：2014/11/27(木)
 時間：17:00~18:30
 参加人数：23人



7 地域交流プログラム 射水市

【アウトリーチプログラム】

射水市チームは現代曲を中心に、空間的に様々な工夫を凝らし、「箏の表現力」をアピールしました。演奏家自らが教室に生徒を招き入れ、まずは箏のイメージを覆す沢井比河流『上昇の彼方』を演奏。次に三面の箏を生徒たちの周りを囲むように配置し、特別な音響空間を設定。吉村弘『アルマの雲』で箏の音色に包み込まれるよう繊細な響きを感じてもらいました。また同じ配置で、沢井忠夫『鳥のように』を三重奏にアレンジして披露。最後は、箏のダイナミックさを感じてもらう

ため、生徒に箏に近づくよう促し、沢井忠夫の『五節の舞』を大迫力で演奏して、締めくくりました。

実施団体：公益財団法人射水市文化振興財団
担 当 者：大井進
演 奏 家：吉澤延隆、マクイーン時田深山、
中島裕康
コーディネーター：米澤浩

	アウトリーチ①	アウトリーチ②	アウトリーチ③	アウトリーチ④
日 時	12/11(木) 3校時目	12/11(木) 5校時目	12/12(金) 3校時目	12/12(金) 5校時目
学校名	東明小学校	東明小学校	塚原小学校	塚原小学校
クラス	5年1組	5年2組	5年1組	6年1組
会 場	音楽室	音楽室	音楽室	音楽室
参加人数	30人	32人	25人	26人



【ホールプログラム(ワークショップ)】

ワークショップは、『さくらさくら』を用いて、午前と午後に分けて2回行われました。午前は、アウトリーチで訪れた小学校の生徒向けに急遽設けられたミニワークショップで、箏の基本奏法を練習した後、過去の本事業で考案された『さくらさくら』を二人で協力して奏でるリレー方式を行いました。

午後からは、一般の方を対象にしたワークショップを開催。参加者を3組に分けて、各組の講師により、基本奏法や『さくらさくら』を練習。その後、「自分だけの音」を作るため、用意された棒や紙

などを用いて、個々でオリジナルの音を作成。その音を用いた合いの手をいれながらの『さくらさくら』で、各組の成果発表を行いました。最後は講師による『五節の舞』の演奏を披露しました。

コース名：一緒に弾いてみよう！箏ワークショップ！！
会 場：高周波文化ホール 第3研修室
実 施 日：2014/12/13(土)
時 間：①11:00~12:00 ②13:30~15:00
参加人数：①4人 ②19人



8 総括公演プログラム

総括公演プログラムとして、富山県高岡文化ホールで全演奏家によるコンサートが開催されました。

「箏のファンタジー～新春に贈る和の響き～」と銘打った本公演では、アウトリーチで演奏された曲に加え、ジョン・ケージのプリペアドピアノのための曲の箏ヴァージョンや、二十五絃箏の独奏曲、古典曲「松竹梅」に十七絃パートを加えるアレンジを施した曲など、各チームがそれぞれの個性を存分に発揮した幅広い内容のプログラムとなりました。曲順も全体の構成を考えたものとし、コンサートとしての一体感を出すことを意識しました。また、フィナーレではこれまでの本事業での成果を踏まえ、今回も参加演奏家全員による合同演奏曲の委嘱初演を行いました。

合同演奏曲は、富山県文化振興財団が「今後も地域の邦楽愛好家に演奏してもらえる、富山にちなんだ箏の合奏曲」というコンセプトで、作曲家・秋岸寛久氏に委嘱しました。当初は、過去に同財団が委嘱した既存曲の編曲という案もありましたが、作曲家からの「富山県の民謡を題材とした自由な変奏曲がよいのではないか」という提案を受け、「こきりこ節」「越中おわら節」「麦屋節」の旋律をもとにした『富山の旋律によるディベルティメント』が作曲されました。演奏家達は作曲家とともに、東京と現地で2回の合同練習を行った上で本番に臨みました。

邦楽というジャンルのイメージを覆す斬新な曲構成により、邦楽の新しい可能性や箏の持つ幅広い表現力を伝えるコンサートとなりました。

※P.37 資料参照（チラシ、パンフレット）

【ガラ・コンサート】

日 時	平成27年 2月1日（日）14時開演	主 催	公益財団法人富山県文化振興財団、 公益財団法人高岡市民文化振興事業 団、公益法人射水市文化振興財団、 公益財団法人砺波市花と緑と文化の 財団
場 所	富山県高岡文化ホール 大ホール（設定席数705名）	共 催	一般財団法人地域創造、富山県、高 岡市、高岡市教育委員会、射水市、 射水市教育委員会、砺波市、砺波市 教育委員会、北日本新聞社
演 奏 家	黒川真理、平田紀子、石田真奈美 花岡操聖、荒井美帆、内藤美和 吉澤延隆、マクイン時田深山、中島裕康		
来場者数	428名		



「蘭拍子」



「松竹梅」



「鼎坐樂」



「五節の舞」



「THREE DANCES」



「琵琶行」



「富山の旋律によるディベルティメント」

◎ コ ラ ム ◎

◎お楽しみはこれからだ！

平成26年度コーディネーター
邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団 副代表 米澤 浩

映画史に残る名台詞をタイトルに掲げてコラムを書きだすことをお許しいただきたい。

邦楽の「アウトリーチ」や「ワークショップ」のこれからを考える時、これ以上私の心境を言い表す言葉が見つからなかった。

これまでの見聞・経験は一人の尺八吹き範囲なのでその情報量は当然限られるが、所属団体である日本音楽集団の一員として1970年代から、そして個人的には90年代から学校を訪問し始めた。当初は「学校鑑賞会」と呼ばれる事業で、「アウトリーチ」とは全く構成意図が異なるものであった。「ワークショップ」も同様で、邦楽界で流行りはじめた当初に行われていたほとんどが「体験レッスン」の域を出ていなかった。

しかし、今は様子が変わった。邦楽の若手アーティストの中に、「アウトリーチ」や「ワークショップ」はどうあるべきか？をしっかりと考えて事業に臨む演奏家が増えて来ている。この好ましい展開には、「邦楽地域活性化事業（以下、本事業）」も多大な影響を与えていることは間違いなく、本事業を経験した若手アーティストの中には、「アウトリーチ」や「ワークショップ」を自分達だけで構成するのではなく、現地のホールマンの方々と相談しながらカスタマイズしてプログラムを構成するアーティストも出て来ている。非常に望ましい展開である。

私は本事業で機会が得られた時、若手アーティストの皆さんに「ワークショップ」とは何か？を考えてもらうため、「レッスンとレクチャーとクリニックの違いは何だと思えるか？」と投げ掛け、これらが区別された後に「では〈ワークショップ〉はレクチャーやクリニックとどう違うか？」と投げ掛ける。「ワークショップ」がどういうものか見えて来たら、「限られた時間の中で、自分なら〈ワークショップ〉で何をやるか？」を考えてもらう。これまで邦楽界においてこれらのカテゴリーを考える機会は無かっただろう。そうでなければ「ワークショップ」が「体験レッスン」に止まることなどありえない。

「アウトリーチ」も同様に、「学校の先生が教材のCDやDVDを見せるのと〈アウトリーチ〉はどう違うか？」と投げ掛け、アーティストから「目の前で生の演奏に触れ…」等というステレオタイプの答えが返って来たら、「ならば、演奏者は誰でもよいか？あなたである必要・必然は何か？」と投げ掛ける。本事業でのこれらのやり取りは、参加アーティストにとっての「ワークショップ」にもなっていると思う。実は私自身にとっても、以前は「子ども達の前に立つ演奏家が、自分である必然は何か？」を真剣に考える必要に迫られなかった。邦楽の演奏家というだけで「絶滅危惧種」的に扱われ、何をやっても「なぜ？」と聞かれること自体無かったのだ。

しかし、今は違う。前述のように、自分達が行う「アウトリーチ」や「ワークショップ」はどうあるべきかを考え、独自のプログラムを構築するアーティストが出て来ている。アーティストが変われば異なった個性的なプログラムが地域の方々や子ども達に提供される時代がすぐそこまで来ている。地域のノウハウを持つプロと、個性的で必然性に溢れたプログラムを持つアーティストがタッグを組んで事業を展開する時代がすぐそこまで来ていると信じ、期待でワクワクしているのだ。

「地域住民の方々や子ども達が、体験・経験を通して《アーティストが伝えたいコア》に触れ実感する」ことが、当たり前のようにできるようになるのは「すぐそこ」だ。

最後に卑近な例で恐縮だが、私が関係する他の事業で箏を体験した小学校5年生が感想を「歌」に詠んでくれたので紹介したい。

初めての ことにふれて うれしいな つめもいたいし ひくのもむずい
ことさわり 音をだすため コツつかむ 上からグイッと おすようにする

(日本音楽集団Facebookより転載)

澄んだ感性が待っている！お楽しみはこれからだ！

Ⅲ. 平成26年度 事業報告

1 主催団体報告

ディレクター

[公益財団法人富山県文化振興財団 富山県高岡文化ホール館長 山本 広志]

当館が所在する富山県高岡市は、加賀前田藩の2代目当主の城下町として開町以来、400年余の歴史の町である。当時の産業である鋳物、漆器などの伝統産業の加えて、能、日本舞踊、茶道、華道、邦楽など他地域に比べても振興しており、まさに伝統文化の町として立地している。しかしながら近年の少子化の影響により、習い事を始める青少年が少なくなり、どのジャンルにおいても後継者に危惧しているのが現状である。当文化ホールにおいても、伝統文化を含めベクトルを地域に根差した事業運営を画策しながら取り組んでいるが、邦楽の取り組みには今一度難しさを感じていた。これが、地域創造の邦楽地域活性化事業に手を挙げた要因であった。過去の報告書にも見られるが、ホール自身のマネジメント力の向上と学校との連携、地域文化施設との連携、演奏家の育成など大きな期待をもって取り組んだ。

演奏家を選ぶにあたり、過去に例がない3ユニット9名すべてが箏演奏家になったのであるが、それぞれが独特のカラーを持ち、十七絃、二十五絃箏とバリエーションに富む演奏スタイルとなった。最後の総括演奏会では素晴らしいプログラム構成が実現した。

地域交流プログラムを実施した各市のホールとの連携については、事業担当者の情報を出来るだけ共有し作業の進捗を合せるよう心がけていたが、多少取り組み方に温度差があったようだ。しかしながらホールによっては人員が少なく、兼務業務として事業を行っているため、関係者同志の相互支援がうまく機能した。また、受け入れの小学校も地域ホール担当者のきめ細やかな折衝でスムーズに展開できた。今後、学校など教育機関へのアプローチの手法やネットワークを活用してもらいたい。また、特筆すべき事として、各担当者とも、いかに演奏家や関係者が気持ちよく演奏や行動してもらえるのかについて、一番気遣っていた点である。どの会場でも笑顔の中で事業が進められた。

9月下旬に演奏家たちが取り組んだ手法開発研修会が、我々にとっても驚きの連続だった。いかに短い時間で子供たちも心を引き寄せるのか、音楽を通じてメッセージが伝えられるのか、悩み苦しみながらブラッシュアップしていく。これは演奏家に求められる演奏技術以外の必要なスキルであると痛感した。学校での演奏で子供たちの見せた笑顔は、彼らにとっては大きな励みになったに違いない。

総括コンサートは、スタッフの努力もあって430名余の入場があった。プログラム構成もバラエティに富み、このコンサートのための委嘱作品も演奏された。この作品は、地元で継続的に演奏できるよう企画していかなければならない。すべての事業が終了した時に、演奏家たちから異口同音に「高岡は忘れない。また演奏したい。」と言われたことは大変うれしいことであった。

今回の邦楽地域活性化事業は6回目であり、すでに多くの問題点が整理されて進められたので、大きな問題はなかった。当初の目標も充分達成したものと評価している。問題はこれからの展開である。今回、いろいろな事項でスキルアップしてきたことをどのように生かしていくか。また今後、当財団を入れて4施設で取り組んだネットワークを活用しながら、企画を推進していかなければならない。これこそ地域創造へのお礼である。最後に関係者ならびスタッフの皆様に深く感謝申し上げたい。

1 主催団体報告

担当者

[公益財団法人富山県文化振興財団 富山県高岡文化ホール サブマネージャー 坂野 弘幸]

1. 事業全体に対する所感

演奏家の皆さんは「邦楽の魅力発信」の使命を持ち、熱い思いでこの事業に全身全霊で挑み続けられました。その思いはきっと、地域交流プログラム参加の子どもたち、総括公演でご来場いただいた方々に“感動”というかたちで伝わっていることと思います。

邦楽地域活性化事業は多くの方のご尽力で成り立っており、そこには人間愛が満ち溢れています。これは普段の事業では味わえないことです。

私たちにとっても、お箏のイメージが全く変わりました。ロックのような激しさもあり、「KOTO」は世界でも通用する楽器であろうと認識を改めました。子どもたちも大きな衝撃を受けたに違いありません。一連の実務作業を担当させていただき、きめ細かなタイムスケジュールや台本作成等々、私にとって生涯忘れられない事業となりました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦勞した点

演奏家の皆さんの大変さを考えると、全く苦勞はなかったといえます。

事業に携わる知識の豊富な諸先生方、県内ホール職員の皆様のご指導の下、実施してまいりましたので、大変有意義で楽しかったです。

ただ、地域交流プログラムまでの活動が事業の集大成となる、総括公演の来場者数にどのように表れるかは不安でした。広報活動の責任は重大で、演奏家の皆さんが一生懸命に創り上げてきた総括プログラムを台無しにしてはならないというプレッシャーは強く感じました。

3. 苦勞したことを解決するにあたりどのような工夫をしたか

当館では通常3ヶ月前にはチケット発売開始を行いますが、総括公演のチラシ・ポスターの完成時期が遅れ、発売日が12月1日となり、2か月間しかありませんでした。

新聞・タウン誌等、文化団体への広報活動、各市の事業担当者への協力要請、アウトリーチ実施校への協力要請、当ホール来館者への宣伝活動、当ホール組織の音楽友の会会員へのアプローチ、DM、SNS等、公演当日まで情報を発信し続けましたが、演奏家の皆様にも広報にご協力いただき、本当に感謝いたしております。

それでも、前売り券は1月中旬まで70枚程度で焦り始め、公演当日まで本当に不安でしたが、開場後ほとんど切れ間もなくホール客席へ向かうお客さんの姿を見ると一安心しました。結果的には、428名（当日券66枚売上）の皆様「箏のファンタジー」を鑑賞していただきました。

なお、当日はあいにくの雪で、チケットを購入し来場されなかった方が、54名おられたことを書き添えておきます。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

子どもたちの興味津々の表情は、確かな手ごたえがあり、やはり感受性豊かな時期に触れることが重要であると思いました。それには、もちろん伝える側の使命感と熱意が必要で、今回参加された演奏家の皆さんは、たいへんな努力を積み重ねられました。大人の本気が子どもたちに影響を与えるのだ、という確信を得ました。

しかし、子どもたちにとっては初めの一歩であり、きっかけでしかありません。このことを肝に銘じて、次の展開を探るつもりです。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

当ホールでは、今回の邦楽地域活性化事業を含め、今年度からこども生活文化祭「花展・お茶会」を開催してきた。今まさに「伝統文化の承継や青少年の芸術文化活動の活性化」に取り組むべきであると考えており、来年度も引き続き、子ども生活文化祭を始め邦楽コンサートも企画しています。

本県には、お箏など邦楽等の伝統文化の教室を開講しておられる先生方が多くおられます。その方々と、生徒数の状況等の実情を共有しながら、また教室の先生方と綿密に連携し、取り組むべき手法を協議して、事業展開していきたいと考えています。

② チーフコーディネーター総評

文化を育てる空気感のある富山県について

[いわき芸術文化交流館アリオス チーフ・プログラム・オフィサー、地域創造 プロデューサー 児玉 真]

モデル事業から始めて6年目の邦楽事業は富山県高岡市にある県立ホール（高岡文化ホール）を中心に、県西のエリアで行った。高岡は万葉時代からの歴史があり、また前田藩の主要都市でもあったためか、様々な文化が自然に存在しているような心地の良い町である。それは訪れた9人の演奏家もコーディネーターも半年をかけてこの事業と関わることで感じ取ってもらえたのではないかと思う。

前年徳島の反省会での指摘から、市町村が学校などと交渉を始める前の年度初め（4月）に実施館に集まっただき、チーフコーディネーターがレクチャーすることを含めて、説明会を行うことにした。極力クラス単位でのアウトリーチを行うことをコンセプトにしているこの事業では、学校に対して市町村担当が説明しきれない可能性を指摘されたからだが、富山県においてはそのあたりは過去の実績からすでに十分に理解されていたように思う。とはいえ、アウトリーチを始め事業の全体像が4月の段階できちんと市町村に説明できたのは大きかったと思う。

アウトリーチの内容であるプログラム作りをその地域で時間をかけて行うことに関しては、この事業は「おんかつ」のアウトリーチフォーラム事業と同様に以下の目標がある。

- ・館の職員と演奏家の意識の向上およびアウトリーチ手法の開発とその能力を獲得すること
- ・県または財団の職員がこのような事業の総合的なコーディネーター役をできるようになること
- ・県と市町村が協働してアウトリーチ事業を推進する機会になること

1番目に関しては、毎回のことだが、アウトリーチの進行プラン作りについてはコーディネーターと演奏家全員で本当によく考えた。今回はそれだけではなく、全ての市町村ホールの担当者が積極的に参加し、意見を言ってくれていたのだが、その気持ちが演奏家にも伝わっていたと思う（そのような空気を作ってくれたコーディネーターにも感謝である）。

2番目と3番目はこれからの課題であろうし、一朝一夕にできるとは言えないかもしれない。個人的な見解ではあるが、時間はかかるにしても、最終的にはこのようなプログラム作りの伴う事業の価値を地域が見出し、県が自主的に企画して行い、そのノウハウを県内各地で活用していけるようになるのが一番望ましいと考えている。そうでなければ、わざわざ東京から演奏家が行って地域の会館で合宿をするというモデルを（地域創造がやるのはともかく）県が継続して取り組むにはかなりのハードルがあるだろう。でも、それができるとより素晴らしいことが地域にもたらされるはずである。

さて、今回の富山での邦楽地域活性化事業独特のポイントをいくつか挙げるとすると

1. 特に県西部における市町村ホールと富山県高岡文化ホールとの間の関係構築の実績と連携の良さ
2. 演奏家3組が全て箏3人という構成になったこと（箏奏者が9人！）
3. ホールと邦楽の両方を知悉したアドバイザーの存在

の3点に要約されよう。それぞれ所感を書くことにする。

富山湾は天然の生け簀と呼ばれるように海産物の豊かな地域である。それにはそこに流れ込む河川の栄養豊富な水があるからというのはそれほど知られていない。富山県はその県民性の故か大きく告知されてこそいなけれども、海産物や農産物だけではなく文化に関してもかなり進んだ感性を持ち、様々な事業が継続的に行われている地域でもある。川の水の豊かさと同様に住民ひとりひとりの文化に対する信憑とセンスが無ければ、事業の成果を上げることはできないだろう。その認識を今回の事業でさらに深めた。

さて、富山県は県立のホールを県内3つの都市に持つが、これは全国的にもそれほど多いケースではない。それ故県立ホールの職員は、常々市町村との関係性を強く意識してきた。県内のネットワーク事業もすでに10年以上にわたって行われているし、市町村と県のホールの職員同士の関係の密度も他県と比べて高い。2007年度のアウトリーチフォーラム事業を実施した時にも感じたことだが、当時と比べてもその関係性が強く出ていたと思うのは、本事業がアウトリーチを実施した3市との共催名義で行われたことにも顕れている。こういうことは日常の関係作りの賜であって、それは、市町村の担当者が自分のホールが担当する演奏家以外の演奏家たちにも心を配ってくれていたことにもつながっていると思う。

今回の演奏家は6回目にして始めて9人全員が箏奏者になった。箏3本という組み合わせ（かつ、全員が生田流）であることから、曲目の重なりやアウトリーチ内容の重複を、それなりに心配をしたのだが、個性を重んじるアーティストならではのプランに感心した。アウトリーチに関してだけでなく、ガラコンサートでも全員での話し合いによって問題を解決し、独自のコンサート企画にしていたところはさすがだと思えた。逆にお互いが意識をしていたことが、コンサートの緊張感を高めた要因でもあっただろう。最後の合同演奏で、合奏を楽しんでいることを意図的に演出する必要があるほどに、みんなが緊張していたのも各自の演奏意欲の高さだと思えてうれしかった。

本事業では、毎回アドバイザーを配置している。それは邦楽事業について未だ公共ホール関係者に（地域創造も含め）専門的な人間が少ないこと、逆に邦楽の専門の方にホール運営の知識が少ないことを意識したもので、その地域の実情に合わせて、毎年適した人をお願いしてきた。今回、邦楽の知識とホール運営経験の両方を持った神奈川県立音楽堂の伊藤由貴子館長に入っていただいた。富山県高岡文化ホールの山本広志館長、コーディネーターをしていただいた熊本県立劇場の本田恵介さんという、県立会館のネットワークがあったおかげだが、彼女のはっきりした発言は、演奏家にとっても運営サイドにとっても大変刺激的だった。演奏家に対しては、プロデューサーとして一番厳しいことを言ってくれたし（コーディネーターにはなかなかできない）、6年が経過して事業形態が固まってきて、ややルーチンに入りそうになっている時期だけに、先例を意識しない発言はとても新鮮でありがたいと思った。

③ 地域交流プログラム報告 ① 砺波市

砺波市担当コーディネーター

[公益財団法人熊本県立劇場 事務局次長兼企画事業課長 本田 恵介]

黒川チームが担当した砺波市は、富山市の西、高岡市の南に位置し、チューリップの町として知られる。市の人口は5万人弱。市内に小学校が8校あるが、今回の地域交流プログラムでは市の中心部に近い出町小学校と、そこから西に車で10分ほどの鷹栖小学校を訪ねた。

チームリーダーの黒川さんは、富山県射水市出身。現在は東京と富山で演奏活動や指導を行っているが、富山では黒川邦楽院の学院長を務め、地元では著名な邦楽演奏家である。その黒川さんが、今回アンサンブルの仲間として選んだのは平田紀子さん、石田真奈美さんの二人。いずれも黒川さんと同じ深海さとみさんの門下である。

高岡市で行われた手法開発研修会では、黒川さんを中心にアウトリーチの選曲や構成を組み立てて行ったが、ここでは優れた箏の演奏家でもある宮城道雄、沢井忠夫、深海さとみの3人の作品を取り上げることにした。これは、箏という楽器を熟知した演奏家による作品を知ってもらいたいという黒川さんの強い思いから出たものであった。

演奏家としてのキャリアは十分持っている3人だったが、子どもたちに対して言葉や映像なども使いながら邦楽をわかりやすく伝えるという手法については戸惑っていた。

最終日は、不安を抱えながら放生津小学校でのモデルアウトリーチに臨んだが、黒川さんの富山弁がいきなり子どもたちをつかんだ。

地域交流プログラムでは、砺波市の出町小学校、鷹栖小学校ともに学校側の協力がスムーズに得られ、事前の下見でお願いした以上の準備が為されており、充実したアウトリーチ事業として終えることができた。これは、ホールの担当者である佐伯さんが調整役として十分機能した証であろう。また昨年初め、黒川さんが「北日本新聞」のテレビコマーシャルに出ていたことを多くの子どもたちが覚えていたため、「箏演奏家の先生」から「テレビに出ていたお姉さん」に変わったようで、子どもたちの表情が柔らかくなり、演奏家側に気持ちが近づいてきたことが見て取れた。

また3日目のワークショップでは、大ホール舞台上に20面の箏を並べて実施し、地元の民謡「こきりこ」を取り上げた。特に印象深く思い出されるのは、お母さん、妹と参加した小学生の女の子。会場受付まで来たものの、機嫌を損ねて急にやりたくないと言いつつ、石田さんらが辛抱強く説得して何とか会場に連れてきて参加させることができた。弾き始めると気を取り直して、最後まで熱心に、一生懸命弾いていたことは言うまでもない。

最後に、今回のプログラムで最も印象に残ったことを記して報告を終えたい。手法開発研修会でプログラムづくりに演奏家が頭を悩ませていた9月、黒川さんにはまだ1歳にも満たない娘さんがいらした。実家のお母様や伯母様が高岡文化ホールへお越しになり、交替で娘さんの面倒を見ていただいていたが、時々おっばいをあげたり、あやしたりするために練習や打ち合わせが中断することもあった。しかし、このブレイクタイムは演奏家や私にとって和みの時間となり、集中力や思考力を阻害するどころか、むしろリフレッシュするために効果的であった。さらに砺波市でのアウトリーチ2日目には、黒川さんのご主人が休暇を取って現場に駆けつけられたことは、彼女にとって大きな心の支えになったことと思う。

このように、周りに支えられながら演奏や今回のような活動を続けて行く機会は、今後女性の演奏家にとってますます増えて行くと思われる。これからの社会は、そうした活動を積極的に受容していくことが必要であると感じた。

③ 地域交流プログラム報告 ① 砺波市

砺波市担当者

[公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団 佐伯 宇一]

1. 事業全体に対する所感

会館に勤務してから、主に舞台業務に関わってきました。企画の仕事の経験はあまりなく、アウトリーチの業務に関してはほぼ初体験でしたが、全体研修会や手法開発研修会に参加させていただき、関係者の方々といろいろな問題を解決しながら一つの事業を作り上げる中で、ノウハウを得る事ができました。貴重な体験をさせていただき感謝しています。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦勞した点

ワークショップを開催するに当たり、箏の手配や、参加者の募集に関して、どうすればいいか悩みました。箏に関してはこの事業のネットワークを生かし解決できましたが、参加者の募集に関しては、市内の小学校を中心に募集チラシを配布し呼びかけましたが、それだけでは結果が思わしくなく、反省点となりました。

3. 苦勞したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

ワークショップの箏に関しては、ディレクター館の高岡文化ホールで県内3事業分の照会をしていただき、募集予定数を確保できました。また、爪はコーディネータの本田氏が勤務する熊本県立劇場からお借りするなど、事業のネットワークを生かすことが出来ました。

参加者に関しては、アウトリーチの会場であらためて参加を募りましたが、会場が校区外のため、移動手段など、子供たちだけの参加は難しかったようです。そのかわり、多くの先生が参加してくれた事に手応えを感じました。

また、手の空いた職員や、職員の家族も参加してもらい、最終的には予定人数に達することが出来ました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

アウトリーチやワークショップでは、間近で一流の演奏家の生の演奏を聴いてもらう機会を提供でき、参加者は箏への印象が変わったと思います。当館では大ホールで市内の小・中学生への鑑賞事業を実施していますが、子供たちの反応から、アウトリーチとは、感じ方・理解度には格段の差があると感じました。また、座席数1,000人を超えるホールの舞台の人間としては、どうしても電気音響に頼りがちでしたが、生の音の大切さを改めて感じる事が出来ました。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

邦楽の生の音にこだわった今回のようなアウトリーチやワークショップは、演奏家の方の招聘など予算的には単独での開催には課題が多いと思われます。今回の様に複数館でネットワークを組めれば、そのような課題のハードルも低くなると思います。このような体制の事業に参加できる場合は今後も積極的に取組んでいきたいと思っています。

③ 地域交流プログラム報告 ②高岡市

高岡市担当コーディネーター

[公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部企画室長 谷垣内 和子]

加賀藩主前田利長公の城下町として発達した高岡市は、万葉集全二十巻を三日三晩かけて朗唱する催しが行われるなど、日常的に日本の文化が息づく街である。

ホールワークショップを実施した市民会館は古城公園のなかにあり、アウトリーチを行った定塚小学校とガラコンサートの会場である高岡文化ホールは、それぞれほぼ半径500m圏内に位置する。コンパクトなエリア内で事業が完結したこと、圧倒的な行動力と強烈なリーダーシップの持ち主である開館長の存在、ホール職員の方々の連携の見事さ、演奏家のチームワークの良さが相乗効果を生み、理想的な協働関係が成立した。

ホール担当者は、手法開発研修会の全工程にわたり行動をともにし、プログラム構築に至る過程を共有。スケジュール管理、事前準備から当日運営に至るまで、細やかにサポートしてくださった。チェックシートの完成度の高さも特筆すべきで、現場で大いに効力を発揮した。

定塚小学校は明治34年（1901）創立。漫画家の藤子・F・不二雄氏の出身校でもある。5年と6年の各2クラスを対象にした授業では楽器移動の必要もなく、比較的ゆったりとしたスケジュールで、同校に特化したプログラムが実現した。

花岡チームは、全員が二十五絃箏（以下、二十五絃と省略）の演奏家でもある。楽器を考案し、その音楽世界を切り拓いてきた野坂操壽師に憧れてプロの道を歩んできた。彼らのテーマは、二十五絃の魅力を子どもたちに伝えることだった。

二十五絃は1991年に完成した最も新しい箏である。新しい楽器では、演奏曲の創作が不可欠となる。演奏と作品供給の両面で、未だ発展途上にある楽器と言わざるを得ない。二十五絃の若さゆえの課題をどう解決して行くのか。二十五絃でなければならない必然性について、明確に説明できる言葉が必要だ。好きだから…では説得力を欠く。この一点が今回の課題となった。

終曲は二十五絃の三重奏と決めた途端、それ以外に持ち込む楽器は最低限に絞り、スムーズに転換できることが条件となった。標準的な箏を1面だけ追加し、低音二十五絃を十七絃の代替にすると、何が出来るだろうか。古典曲と現代曲、通常の箏と二十五絃、ソロとアンサンブル、純音楽と標題音楽……。 「比べる」視点がカギとなった。

藤子・F・不二雄氏にちなんで「ドラえもののうた」を導入に用い、演奏の合間に、自らのキャリアや曲への思いを語り、図書室にあった紙芝居の道具を活用したり、クイズを交えるなど、次々にアイデアが生まれた。箏曲の創始者である八橋検校の生年と、高岡市のマスコットキャラクター「利長くん」のモデルとなった前田利長公の没年が同じことなど、ご当地素材をふんだんに盛り込んだプログラムが出来上がった。

ワークショップのプログラムづくりもスムーズだった。三重奏に編曲された「こきりこ節」（山内雅子編曲）を教材に、主旋律からスタートし、参加者の進度や興味に応じて少し異なる手法を用いたパートに挑戦してもらい、最後にステージでの発表会形式で、合奏を楽しむことをねらった。小学校の音楽授業での実践から生まれた編曲は、こうしたワークショップの教材としても有効であり、手元を拡大してディスプレイに示す手法も功を奏した。このほか、雰囲気盛り上げるためにササラを合わせるアイデアが、ホールが関係を構築していた地元の伝統芸能の舞踊家との共演につながったのには驚いた。

今回の実践は、さまざまな好条件が重なり、非常に恵まれた環境下で実施できたことが大きな成果につながった。ことにホール職員の方々の温かくきめ細やかなサポートには感謝の言葉もない。アーティストにとっても、それぞれに二十五絃に真摯に向き合い、自分たちの使命について考える機会となったことは確かだろう。

③ 地域交流プログラム報告 ②高岡市

高岡市担当者

[公益財団法人高岡市民文化振興事業団 堀内 美里]

1. 事業全体に対する所感

4月に当会館に配属となった私にとって、このように内容の充実したプログラムに一から参加させていただいたことは、大変貴重な学びの場となりました。アウトリーチに臨むにあたり、演奏家の方々には、初めの段階から子供たちに伝えたい思いが明確にあり、それをどんな言葉で伝えたいかと投げかけて下さいました。それをきっかけに谷垣内コーディネーターとの話し合いを経て、演奏家の思いへの「共感」が生まれました。その思いを実現するために、ホール担当者としてできるサポートを考えながら、実行していくこととなりましたが、事業の全ての過程を通じて「共感」することの力を強く感じました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

手法開発研修会でワークショップの内容を決定してから、参加者募集を開始するまでの限られた期間の中で、迅速に、かつ有効な広報活動の準備を整えていくことが大変でした。どこに広報をしていけばよいのかを模索しながら進めました。また、アウトリーチの子供たちやワークショップの参加者だけでなく、幅広く地域に根差した方々を巻き込みながら事業を進めていくことの難しさも感じました。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

手法開発研修会に参加する前に、ワークショップ参加者募集のチラシと送付先の素案を準備しておいたことが、広報活動を始めるまでの時間短縮に役立ちました。チラシの配布先は、一般的な公共施設等の他に、学校の吹奏楽部顧問、楽器店や音楽関係のスクール宛てなど、邦楽に敢えてこだわらず広く音楽に関わる方々に情報が渡るよう工夫しました。ワークショップでは、地元の箏の先生が見学に来て下さったり、民謡民舞の先生をお呼びし、演奏曲に合わせて踊っていただいたりしたことで、地元の関係者と関わりを持ちつつ進めることができました。しかし、アウトリーチ校の保護者への呼びかけなど、もっと幅広く働きかけることでより多くの方に関わっていただくこともできたのではないかと考えています。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

今回、アウトリーチ後にワークショップへ参加してくれた子供は多く、ワークショップでは「また参加したい」という声もいただきました。古典のみならず新しい邦楽の魅力をお伝えしていく中で、皆さんが活き活きとした表情をされていたことが印象的でした。和楽器の音の奥深さに触れ、お箏に興味を持ったり、その認識を新たにされた方が大変多かったのではないかと実感しています。また個人的には、普段の業務で演奏家の方々とお話をする機会はありませんでしたが、今回は長い期間に渡り、プログラムの達成に向けて濃密な時間を共有させていただきました。演奏家の様々な思いを直接うかがえた経験は、今後活かしていけるだろうと思います。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

邦楽に触れるきっかけをつくるのが、次の新しい広がりを着実に生み出していくのだと実感しています。ワークショップの開催を希望する声に応えて、またこのような機会を設けることができると思いました。地元の邦楽関係者とのつながりを持ちつつも、地域に根差した新しい層をどのように増やしていくのが、今後の一つの課題なのではないかとも感じます。今回、お世話になったコーディネーターの先生方、演奏家、地域創造や施設関係者の皆様とのご縁に感謝しながら、この事業を通して学んだことを今後の事業に活かしていきたいと思っています。

③ 地域交流プログラム報告 ③射水市

射水市担当コーディネーター

[邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団 副代表 米澤 浩]

今回の吉澤射水チームは、大変充実したアウトリーチ（以下、OR）とワークショップ（以下、WS）を実現したが、その背景にある最も重要なポイントは、アーティストに「ブレが無かった」ことだと思う。

チームリーダーの吉澤延隆さんは、「何を子ども達に感じて欲しいか？」という命題を明確に持っており、それを軸にしてORプログラムで使う作品群を絞り込んでいた。スタートの段階で最も重要な「対象を見据えたWhat」を固めていたのである。後は「How」を煮詰めて行けばよく、「ブレない目的」に向かって駒を進め始めればよいという、理想的なスタートであった。

チーム・ミーティングで吉澤チームが考える「What」が具体的に判ってくると、それは非常に興味深いもので、「箏の響きで皆を包みたい」・「箏の迫力を間近に感じて欲しい」という2本柱を軸にした、チームの個性を遺憾無く発揮している内容であった。

手法開発研修会で地域のプロである射水市の大井進館長が加わり、これが吉澤チームへの大きな追い風となった。演奏家が何をしたいかを把握した大井さんは、地元の情報を彼らに提供し、文字通り地域担当者や演奏家が共に考え出した「射水ならではのWS」を作り上げ、併せて吉澤射水チームのプログラムが出来あがった。

手法開発研修会で固まったORプログラムは、リーダー吉澤さんとマクイーン時田深山さん、中島裕康さん3人ならではのプログラムで、その个性的で特徴的な試みは、特に導入後の「アルマの雲」と「鳥のように」の2作品の提示方法によく表れていた。本来はそれぞれ二重奏と独奏であるこれらの作品を、コンサートで演奏者と聴衆が対峙する一般的な構図ではなく、3人が周りから子ども達を取り囲むように配置した箏で演奏し、文字通り「箏の響きで子ども達を包み込む」ことを試みた。これが期待以上の効果を上げたと思う。

ランスルーで私自身も彼らの輪の中に入り、これらの作品を聴いたが、「鑑賞」という感覚とは全く異なり、「箏の響きに包まれる」感覚をはるかに超越して「箏の響きが自分自身の中で鳴る」感覚すら覚えた。特に周りを囲んだ3人の演奏によって体験する「鳥のように」の音空間は、彼らならではの空間で、初めて箏の響きを体験する若い聴衆にとって、大きなインパクトを持つプレゼンテーションになることを確信した。

2つ目の追い風は大変幸運であった。手法開発研修会最終日に行った「モデルアウトリーチ」が射水市内の小学校で行われたのである。結果的に「モデルアウトリーチ」の実施校から早々にWSへの参加申し込みがあり、定員を超える申し込みとなった。ただ、毎年悩ましいのが、ORプログラムの実施日とWSの実施日が連続しているという問題である。OR実施前にWSが定員となった場合、OR実施校の生徒や先生からの参加希望を受け入れられないのだ。

今回は、ORで彼らの演奏に接した子ども達からの参加希望に応えるため、急遽午前中に60分のWSを追加実施することとし、平成24年度の本事業（千葉市）のWSで伊藤麻衣子さんチームが行った、同チームメンバー麻植理恵子さん考案の『さくらリレー』を取り上げた。また、平成25年度事業（徳島県）の吉野川市で日吉章吾さんチームが行った、モニター・カメラを活用するノウハウも導入した。

副次的なことだが、これまでの邦楽地域活性化事業の中で評価を得た《さくらリレー》や《モニター・カメラ》などのノウハウが経験値として蓄積し、他のアーティストにも引き継がれていくことに大きな意義を感じた。これらのノウハウが広がって行く段階で、きっと個性的な改良も施されていくことだろう。このことは、本事業が断続的な事業では無く、望ましいスパイラル状の展開を持った取り組みになっていることによる成果に他ならないと思う。

色々な角度から、今回吉澤射水チームが実現した地域交流プログラムは非常に有意義であり、期待以上の成果を地域と演奏家の両方にもたらしたと言えよう。

③ 地域交流プログラム報告 ③射水市

射水市担当者

[公益財団法人射水市文化振興財団 大井 進]

1. 事業全体に対する所感

邦楽といってもなじみがない楽器でのアウトリーチで、市内の小学校等に受け入れていただけるのか心配でしたが、各学校に問いかけてみたところ、反応がよく安心しました。特に小学校では邦楽の授業が行われていることもあり、先生方に興味を持っていただけました。

財団としては洋楽の活性化事業は経験していましたが、邦楽は初めてだったので多少不安もありました。特に、ワークショップでの楽器の調達が一番の問題だと思っていましたが、地元の楽器屋さんでの借用が可能と聞いて、その不安は解消されました。とにかく初めての試みでしたが、成功させることができて良かったです。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

やはりワークショップの参加者の募集だと思います。ピアノは子供の時から習っている人が結構多いのですが、箏はたぶん少ないだろうと思います。そのような中、約20人の参加者をどう集めるかが一番の問題でした。幸いかな当市でモデルアウトリーチが行われたこともあり、それを行った学校から多数の応募があったことが助けになりましたが、残りの参加者はアウトリーチを行う学校に再度依頼をかけました。当日には参加者が定数を超えるまでになり、安心しました。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

アウトリーチ対象の学校に出向いて、担当の先生にお願いしてワークショップの募集チラシを4年生5年生6年生を対象に配布していただきましたが、反応がなかったので再度募集の依頼をかけました。そんな中、モデルアウトリーチを行った学校から生徒と先生を含めて11名の参加希望が出され、また、参加演奏家とのつながりで他市のお箏の先生からの応募もあって、その時点で定員オーバーの状態になりました。アウトリーチ本番を行った後に当該学校からの参加希望者のために、急遽追加のワークショップも開催することを決め、それも少人数でしたが参加者があり、無事終えることが出来ました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

アウトリーチ事業は他の分野でも行ってきましたが、邦楽ということで小学校ではなじみが薄く、先生方も生の演奏を聞くのが初めての様子でした。先生からは「箏はもっと静かな感じで思っていたが、迫力のあるテンポの速い曲を聞いて、箏の印象がまるで変わった。」との意見が聞かれました。子供たちに大きな影響を及ぼすであろう先生方からこんな意見が聞かれたことは、今後の邦楽の授業にも生かされると思います。今回の邦楽地域活性化事業は一定の成果を上げたものと感じています。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

地域では、芸術文化団体の中での箏の演奏、日本舞踊の発表等で、和の音楽へのかかわりが多少みられますが、ホールの事業としての和の音楽は、まだまだ浸透してない状況です。学校においても和楽器が授業に取り入れられてはいますが、本物の演奏の体験は皆無に等しいものがあります。ホールと学校が連携しながら、次代を担う子供たちに日本の伝統である和楽器の良さを伝えていくためのきっかけになることを目指し、今後の事業としてアウトリーチやワークショップの開催に取り組んでいきたいと思っています。

4 参加者の声 ①全体研修会

<参加者の感想> 解答者数：12名

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| 1. 研修会の内容はいかがでしたか。 | 2. 今回の研修会を、どのようにしてお知りになりましたか。 |
| (1) とても良かった 8名 | (1) 富山県文化振興財団からの案内 10名 |
| (2) 良かった 4名 | (2) 地域創造の広報誌『地域創造レター』
でのご案内 0名 |
| (3) ふつう 0名 | (3) その他 2名 |
| (4) 良くなかった 0名 | |
3. 地域創造が行う「邦楽地域活性化事業」
のことを知っていましたか。
- | |
|-------------------------|
| (1) 知っていた 3名 |
| (2) 知らなかった 1名 (外部参加者のみ) |

4. 研修会の内容について

- ・単なる鑑賞会ではないのだな、本校の子どもたちは恵まれているなあと思いました。子どもたちには本物と出会わせたいと常々願っています。音色とともに演奏家との関わりが、子どもの参加意識や子どもの心に残るものに大きく影響するというのを、この研修を通して感じることができました。
- ・音楽に対する、アウトリーチに対する思いを知ることができた。一つの授業に対するたくさんの思い、努力、協力が感銘を受けた。
- ・昨年の演奏者の方々のデモンストレーションを見て、内容、構成の工夫や苦労が実感を持って理解できました。
- ・実演がとても分かりやすく良かった。下見の前に見せていただくことで、疑問点や不安点などを事前に考えることができた。手法開発研修会の様子を見せていただいたのも良かった。演奏会までに真剣に取り組んでいる様子があり、こちらの身も引き締まった。
- ・今回の事業の意図・取り組み方等、大変よく分かりました。また、学校側ばかりでなく、担当者や演奏家の方も参加しておられた。今日の研修を通し、同じ方向に向かって進めることができると思いました。
- ・クラシック音楽の出前コンサートは毎年開催しているが、改めてアウトリーチの意義・可能性と難しさを知ることが出来た。(中身の重要性)

5. その他ご意見・感想(抜粋)

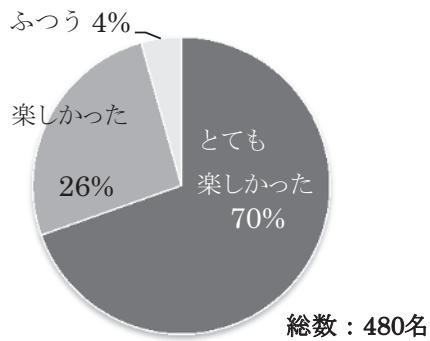
- ・何の予備知識もないままに参加しましたが、この取り組みが目指しておられる趣旨を自分なりに理解できたと思います。子どもにとって本物の学びを大切にしていきたいです。
- ・邦楽の演奏者が若いので、伝統が若い人にも受け継がれ、自分たちもその一人であるとう経験ができて、すごくいいと思います。
- ・今回は5つの小学校ですが、来年度行われるときはもう1校でも2校でも増えるとよいと思う。
- ・今年、当市で実施するアウトリーチに若いスタッフが何処まで取り組み、消化でき、今後の活動に活かしていけるかに期待したい。
- ・当事業団でも一般向けアウトリーチ事業を行っているが、現在のそのアウトリーチ事業の在り方を考えさせられる機会となった。ただ、地域の小屋で演奏家が演奏を行って、それで終わりというもので良いのかどうか、今後の参考にします。
- ・この事業以外でも、市民に芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化停滞を防ぐ手段を知りたい。

4 参加者の声 ②地域交流プログラム

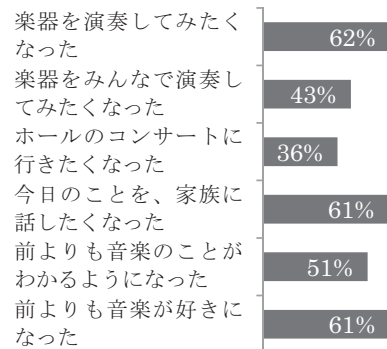
1. アウトリーチプログラム

<生徒の感想>

(1) 今日のコンサートは楽しかったですか？

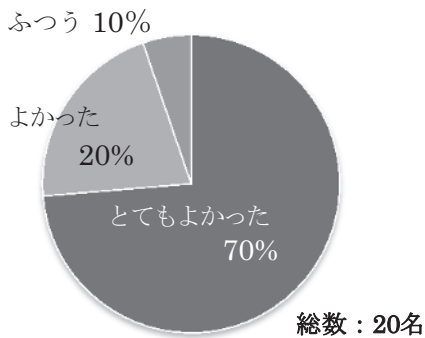


(2) 今日の演奏をきいてやりたくなったことや感じたことはありますか？（複数回答）



<先生の感想>

(1) 今日のアウトリーチコンサートに対する子どもたちの反応はいかがでしたか？



(2) 子どもたちが、授業や学校行事の中で、プロの演奏を生で聴く機会は、この1年間にありましたか。



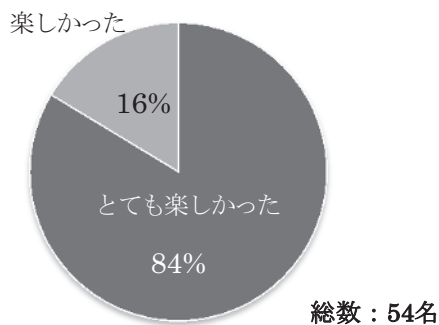
(3) 今日のようなアウトリーチの機会があれば、また取り組みたいですか？



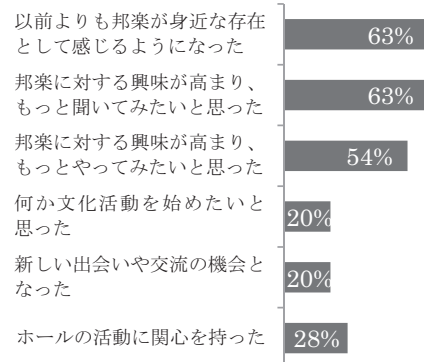
2. ホールプログラム

<参加者の感想>

(1) 今日のワークショップは楽しかったですか？



(2) 本日のワークショップに参加して、どのように感じになりましたか？（複数回答）



1. アウトリーチプログラム

<生徒の感想>

- ・箏は小さい音だと思っていたけど、とても大きな音が出ていて、びっくりしました。
- ・爪がとれるほど思い切ってやっておられて、情熱をととても感じた。あれほど間近で聴いたことがなくて驚いた。迫力があつた。
- ・強弱や音色が1つ1つ違うので、すごいと思いました。1曲1曲に、悲しんでいるところ、楽しんでいるところなど物語が作られていて、箏でこんなに表情をつけられることを知り、興味がわきました。
- ・爪を付けたままと、爪をはずしたときと違う音がした。爪をはずしたときの音は、葉っぱがゆっくりと落ちるような気持ちいい音がして、すごいなと思いました。
- ・箏は楽器だから演奏だけかと思ったけど、歌があつたなんて知りませんでした。
- ・柱を動かすと、同じ絃でも音が変わるので、すごかったです。力がある曲や、気持ちよく弾く曲など、様々だったけれど、弾く曲によって表情が変わっていた。
- ・ピアノは80本くらい絃があるが、箏は13本しかないのにいろんな音が出せていたので、すごいと思いました。
- ・心に響いて、とても良かったです。また聴いてみたいです。
- ・「雪むすめ」が印象に残りました。女の子のいろいろな気持ちがリアルに伝わり、演奏が終わったあとは、鳥肌が立ちました。
- ・2人や3人で箏を演奏するとき、リズムや息がとてもあつていて、すごいと思いました。
- ・何かに一生懸命に、と言われ、私はその何かを探し、今日の箏のように一生懸命になりたいです。
- ・箏を弾いている人が、箏が大好きで、表現の仕方も考えていて、熱がこもっていることを知りました。
- ・箏は四季を現すことができる。
- ・箏は以前聴いたことがあつたけど、ゆったりしている曲しか知らなくて、とても速くなったり、ゆっくりになったりして、とてもカッコよかったです。
- ・手の動き方が激しく速かったりして、目がついていかず、クラクラしそうでした。
- ・あんなに強く絃をはじいたり、押さえたりしているのに、なんで絃が切れたり、手を切ったりしないのかが不思議でした。それくらい強い絃なんだなと思いました。
- ・メロディーがとてもきれいでした。
- ・箏のクイズがあつて、箏の重さが机と同じくらいだなんて、びっくりしました。

<先生の感想>

- ・箏に囲まれて演奏を聴くという体験は大変貴重で、五感をフル活用して全身で音楽を感じることができました。やはり、生の演奏は子どもたちの心に響きます。大変良かったです。
 - ・1クラスずつ、すごく間近で演奏を聴くだけでなく、見て楽しむことができたので、とても良かったです。クイズを取り入れられたり、演奏者としての道を選ばれた理由を話してくださったり、とても興味深い内容でした。
 - ・箏の演奏を聴く機会がありますが、歌と合わせられたのは新鮮でした。お話も子どもたちに聴きやすい、分かりやすい内容でした。
 - ・とても有意義でした。間近で本物にふれる機会があつた子どもたちは幸せだと思います。年齢がお若い方の姿にふれることも、子どもたちのキャリア教育としてなったのではと考えます。
 - ・邦楽に触れることが少ない子どもたちなので、たいへん興味深く聴き入っていた。できれば、教科書等に載っている教材曲やおなじみの曲等のさわり部分を弾いていただくと、一層興味がわくように思った。
 - ・生の演奏を間近で、しかも楽器に囲まれて、音の世界に引き込まれるような感じで聴けたのがよかった。箏に対してのイメージが変わるような演奏だった。
-

-
- ・体育館のように広い場所で、大勢で聴くより、今回のように、ある程度の空間で間近で見の方がよいと思いました。

2. ホールプログラム

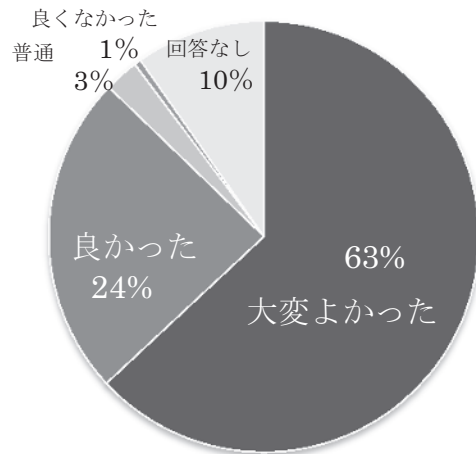
<参加者の感想>

- ・年代を問わず楽しめるワークショップだったと思う。今までの箏に対するイメージが覆させられた。もっとTVなどで紹介されることがあるべきだと思った。日本の大切な日本を代表する楽器として、日本人がもっと知るべきだから。
- ・初めて箏を演奏させてもらいました。音はすぐ出るのに、はじき方でずいぶん音色が変わるものなのだなどあらためて感じました。また箏にもいろいろあって、アンサンブルのような形式の演奏が箏にもあることに驚いたり、その演奏の迫力に感動しました。
- ・とても楽しい体験でした。いっぱい間違っただけで残念でしたが、力を入れて絃をはじくと、思った以上に素敵な音が出て嬉しくなりました。こっそりと箏の裏側ものぞいてみたりして、とても面白いと思いました。
- ・(アウトリーチの時に)箏の音を聞きました。ピアノみたいで、ギターみたいで、とても不思議な音でした。なんだか心地良く、その音が忘れられなくて参加しました。箏を初めてさわって、絃がとても固いことが分かりました。自分なりに、「さくら」を弾けて、よかったです。
- ・演奏者の方たちが本当に素敵で、キラキラしてみえた。きっと子どもたちは将来今回の体験がいろいろな形で生きていくだろうと思う。
- ・自分の出す音色がうまく出来た時は、とてもきれいで楽しかった。
- ・直接、経験することが大切だとあらためて思いました。教科書に出ているのに、鑑賞の域だけで取り組んでいることに反省(?)しています。(アウトリーチ先の学校の先生)
- ・貴重な経験をする場として、とても有意義でした。私自身は、以前に楽器にふれる程度の経験があり、なつかしく感じました。
- ・箏にふれる機会は日常ではなかなかありません。このように楽しんでふれられる機会が増えると、子どもにとってもよいと思います。
- ・自分で練習した後で、演奏家の方々の演奏をきくと、曲がしっかりと体にしみこんでくる感じだった。

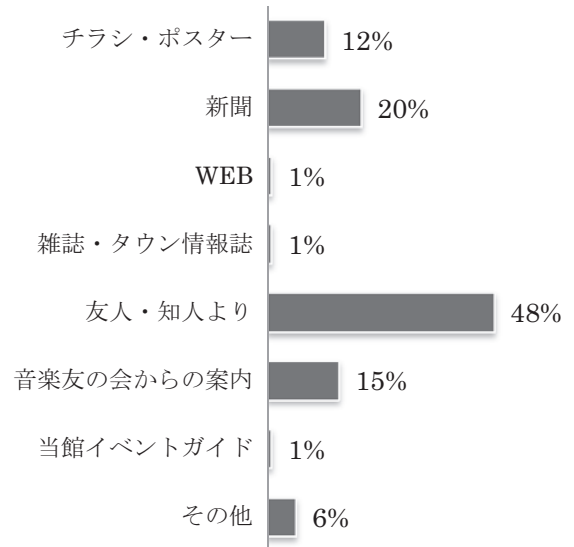
4 参加者の声 ③総括公演プログラム

回答者数 195名

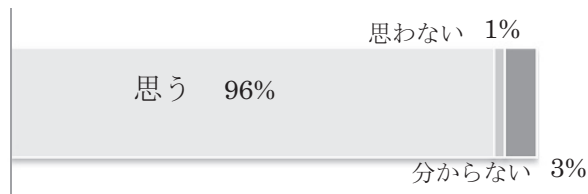
(1) コンサートはいかがでしたか？



(2) 本日の公演をどのようにしてお知りになりましたか？（複数回答）

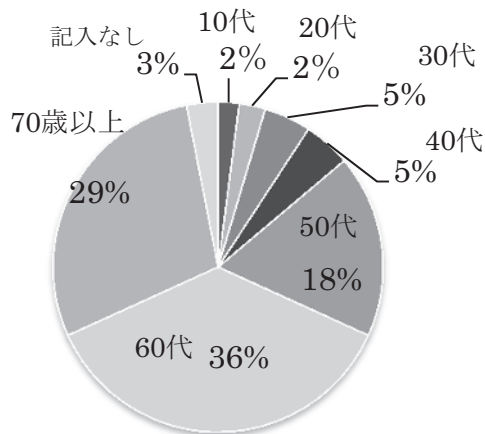


(3) また、邦楽の公演を鑑賞したいと思いますか。

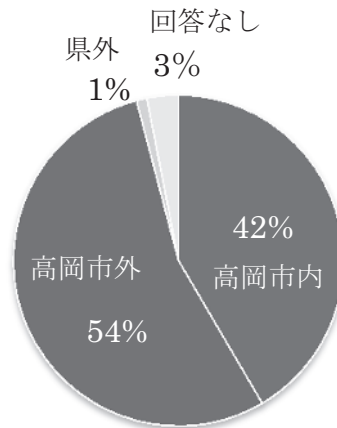


(4) 来場者内訳

① 年齢



② 居住地



(5) 感想 (抜粋)

- ・ こういうのはなかなか聞けません。素晴らしかった。テレビで日本再発見等やっているが、前衛音楽の世界まで到達しているこの箏の世界もっとアピールして世界に、日本人に知らせてほしいです。頑張ってください。すばらしかったです。
- ・ 若い演奏家の方々のバイタリティ溢れるハイクオリティの演奏がそれぞれ聞いて良かったです。
- ・ 箏のイメージが変わりそうです。とても異国情緒溢れた音色で、和も感じ、本当に素晴らしい公演でした。
- ・ 各曲ともすばらしい演奏でした。箏の魅力を再認識しました。こういう演奏会があればぜひまた来たいと思いました。
- ・ 二十五絃はなかなか聞く機会がないので深い音には感動しました。箏の演奏を楽しむには、現代曲の方が古典より魅力がある。どんどんしていただきたい。
- ・ いろんな箏の音色に酔いました。力強さ、優しさ、入り混じって素晴らしかったです。
- ・ プロの演奏感動しました。若い人たちが頑張っているのがすばらしいです。
- ・ 斬新で箏のイメージが変わりました。新年に箏の演奏会、ぴったり。
- ・ 邦楽というものに縁がなかったので、初めて素晴らしい！と思った。
- ・ 若い人の意欲を感じた。
- ・ どの曲も本当に良かったです。こんな手法もあることに本当に感動いたしました。又ぜひ聞きたいと思います。
- ・ 音に躍動感があり、演奏者の魂を感じました。日本の伝統芸能の新しい形を見せていただきとても感動しました。
- ・ 「富山の旋律によるディベルティメント」がとても素晴らしく、多くの県民の方に聞いてほしいと思った。
- ・ 最後の曲（「富山の旋律によるディベルティメント」）ですが富山の豊かな自然、山・平野・海、特に水のイメージが広がり絡み合っていて流れていくようで素晴らしかったです。ジャズのようにずっと身体に入ってくる感じ。何回も聴きたいです。
- ・ また聞きたい！自分も弾いてみたい、そう思いました。
- ・ 現代音楽もよいがオーソドックスなものをもっと聞きたい。
- ・ 普段聞くこのと出来ない幽玄の世界に迷い込んだ様な気持ちになりました。箏といえば尺八との演奏、春の海や六段の調べぐらいしか知りませんでした。
- ・ 箏でこんな曲が聞けるとは驚きました。
- ・ 生意気かもしれないけど技術の高さに感激。また聞きたい。
- ・ 二十五絃、初めて生で聞きました。十七絃の合奏他すべて素晴らしかったです。長年古曲を中心にしてきましたが、現代邦楽、堪能しました。一流の若き演奏家たちに大拍手、ありがとうございました。また聞きたいです。酔いしました。これからすごく楽しみです。

◎現代箏曲の一断面～新しい箏の仲間たち

平成26年度コーディネーター
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部企画室長 谷垣内 和子

「現代邦楽」という言葉がある。この語は、1947年4月に開始したNHKのラジオ番組「現代邦楽の時間」をきっかけに生まれた。この番組はその後名称変更を重ね、1964年に「現代の日本音楽」という番組名に落ち着いた（1972年終了）。詳細な経緯は省くが、このことは、日本の伝統楽器を用いた当時の音楽において、そうとしか呼びよのない新しい動きがあったことを意味する。

これらに先立つ1946年には文部省（現、文化庁）芸術祭が開始。この事業では放送局が作品の委嘱を行うケースも多く、邦楽器を活用した作曲活動を促す原動力の一つとなった。また、1950年には東京新聞社の邦楽コンクールがスタートし、演奏と作曲の両面で刺激を与える存在となった。まさに戦後の復興期にあたり、社会全体に斬新な芸術表現を目指す熱気が満ちていた様子を感じられる。その際に「邦楽」にスポットライトが当てられている点には隔世の感がある。1955年には「現代邦楽」の演奏家養成を目的として、後のNHK邦楽技能者育成会が設置された。ここでは邦楽のジャンルや流派を超えて、五線譜を用いた合奏技術の向上が図られた。背景には、作曲家に邦楽器を活用した作品を委嘱しても、五線譜を最大の課題として、それを演奏できる人材が限定的になるという理由があったらしい。

戦後の「現代邦楽」の世界を主導してきたのは、箏曲と尺八の演奏家たちである。新しいテクニクの開発はもちろん、新たな表現手段としてアンサンブルや合奏団が生まれてくる。プロの演奏家グループ「邦楽4人の会」（1957結成）や、ジャンルを超えたプロの邦楽合奏集団「日本音楽集団」（1964結成）が代表的である。生田流の各派も大規模な合奏団を結成し、1933年結成の宮城合奏団を先駆として、正派合奏団（1947）、沢井合奏団（1967）などが生まれる。それに伴い、洋楽の作曲家に曲を委嘱する動きも本格化し、さらにホールでの演奏会の開催、音響機器の活用、立奏台の考案、楽器そのものの改良から、弦の太さや張力の工夫等々、さまざまな試みが行われた。特に箏曲家達の間で、箏の音域と表現力の拡充は重要な課題と意識され、楽器の改良・製作の試みが相次いだ。

それまでに考案された楽器のなかで最も普及したのは、宮城道雄が開発した十七絃（1921年公開）である。そもそも伝統的な箏曲の世界では、演奏家自らが作曲を手がけてきた。箏曲の近代化に大きな功績を残した宮城道雄は、その作曲活動において西洋音楽の諸要素を取り入れ、箏を中心とする伝統楽器の世界で再構築した。さらには十七絃などの新楽器による大規模な合奏や、洋楽器との合奏を試み、その後の箏曲の方向を決定づけた。

十七絃は当初、低音伴奏楽器と位置づけられ、専ら宮城一門で用いられたが、戦後、唯是震一が作曲した『十七絃と箏群のための協奏曲』（1960）などから活用の幅が格段に広がり、牧野由多可作曲『十七絃独奏のための主題と変容“風”』（1965）に至って独奏楽器としての地位を獲得。今日では独奏楽器としての役割も定着しつつある。もちろん合奏で低音域を担う楽器としての重要性はいうまでもない。

一方、独奏楽器としての表現力を増す試みを具体化した例が、三十絃と二十絃だった。前者は、山田流箏曲家の初代宮下秀冽が考案し、本人作の『組曲平家物語による幻想』（1953）での試演を経て、数年後に完成。同『三十絃のための独奏曲』（1966）以来、ソロ楽器として活用されている。

また、二十絃は、生田流箏曲家の野坂恵子が作曲家の三木稔らの協力を得て開発した楽器で、1969年に第一次の完成を見た後、同年11月のリサイタルで初公開。その後しばらくは二十一絃で実用していたが、さらに数度の開発を重ねて1991年に二十五絃箏へと発展。当初は、野坂・三木コンビによる創作と演奏が主流だったが、伊福部昭など二十五絃箏の可能性に注目する作曲家も増え、委嘱・初演・再演を重ねるうちに、若い演奏家層を中心に取り組む専門家も増えている。

これらの新しい箏は、新たな創作活動の原動力となり、箏曲の概念を拡大する存在となっている。しかし、新しい楽器は常に新しい作品を要求する。それにともない、洋楽など新たなジャンル間の交流も増加している。とはいえ、十七絃以外の楽器は、未だその認知度は高くない。作曲と演奏の両面からの普及は端緒についたところであり、次代のアーティストたちに託された使命は大きい。

IV. 平成26年度 事業資料

【平成26年度邦楽地域活性化事業 総括公演 チラシ表面】

平成26年度 邦楽地域活性化事業 邦楽コンサート

箏のファンタジー

～新春に贈る和の響き～

出演者全員による合同演奏

Photo by NISHI TAKAHO

富山県文化振興財団委嘱初演

「富山の旋律によるディベルテイメント」
(秋岸寛久作曲)

ナビゲーター◆廣川 奈美子

二十五絃箏曲

「琵琶行」白居易ノ興ニ傲フ(伊福部昭作曲)
二面の二十五絃箏と低音二十五絃箏のための

「鼎坐樂」(田中修一作曲)

「蘭拍子」(若原正邦作曲)
箏・三絃・十七絃による

「松竹梅」(三つ橋勾当原曲/深海さとみ手付)

黒川 真理
平田 紀子
石田 真奈美

「THREE DANCES」フタバト箏ワージョン
(ジョン・ケージ作曲/沢井一恵編曲)

「五節の舞」(沢井忠夫作曲)

吉澤 延隆
マクイン 時田 深山
中島 裕康

花岡 操聖
荒井 美帆
内藤 美和

平成27年 2月1日[日]

富山県高岡文化ホール 大ホール 開演 14時(開場 13時30分)

全席自由席 一般 1,000円 高校生以下 500円

主催/〈公財〉富山県文化振興財団、〈公財〉高岡市民文化振興事業団、
〈公財〉射水市文化振興財団、〈公財〉砺波市花と緑と文化の財団
共催/〈一財〉地域創造、富山県、高岡市、高岡市教育委員会、射水市、
射水市教育委員会、砺波市、砺波市教育委員会、北日本新聞社

【プレイガイド】
アーツ・ナビ URL <http://www.arts-navi.com/>
(富山県高岡文化ホール・富山県教育文化会館・新川文化ホール)、高岡大和、
高岡市生涯学習センター(ウイング・ウイング高岡3階)、アスネットカウンター、
北日本新聞社プレイガイド、富山大和、砺波市文化ホール、高岡波文化ホール、アイザック小杉文化ホール

※未成年者の入場はご遠慮願います。公演中の一時的な希望される方は、
公演日の2週間前までにお申し込みください。(無料)
※公演の内容は、都合により変更になる場合があります。

お問い合わせ 富山県高岡文化ホール(高岡市中央1-1)
TEL 0766-25-4141 FAX 0766-25-4332
e-mail takabun@pl.coralnet.or.jp

平成26年度邦楽地域活性化事業

邦楽コンサート 箏のファンタジー ~新春に贈る和の響き~

プロフィール



黒川 真理
(生田流箏曲)

富山県出身。1999年東京芸術大学を経て同大学院修了。2002年文化庁新進芸術家国内研修員として人間国宝・成澤井久仁江に九州系地歌を師事。現在、深海さとみに箏・三絃を師事。2006年「平成18年度北日本新鋭芸術選奨」受賞。2007年「とやま賞」受賞。2008年第14回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール「最優秀賞・文部科学大臣奨励賞」受賞。2008年度(公財)日本伝統文化財団主催第9回邦楽技能者新人オーディション合格。ビクターよりCD発売。主な活動として、2006年国立劇場主催「明日を担う新進の舞踊・邦楽鑑賞会」、2008年NHK教育テレビ「芸能花舞台 今輝く若手たち」、2012年NHKテレビ「にっぽんの芸能」に出演。その他、海外公演多数。黒川邦楽院学院長。生田流正宗邦楽会大御前(雅号 雅楽)。



平田 紀子
(生田流箏曲)

大阪府出身。深海さとみに師事。2004年東京芸術大学卒業。2008年宮城道雄記念コンクール第1位受賞。2011年第18回賢順記念くまもと全国邦楽コンクール最高位「賢順賞」受賞。主な活動として、NHK Eテレ「にっぽんの芸能 芸能百花繚乱」に独奏で出演。NHK Eテレ「にっぽんの芸能」テーマ音楽、NHKラジオ第一「新日曜名作楽」劇中音楽などの録音に携わる。CD「合巻 harmonia ensemble 3rd」「深海さとみ 二曲一歌」(瑞明 榎岸悦子V.などに参加。現在は「邦楽四重奏団」の他、日本作曲家協議会や作曲家グループの作品発表会での演奏を行う他、箏と琴による「Duo Nano」を2013年ベルリンのコンサートで活動を始め、2015年より日本のコンサートを開催予定。



石田 真奈美
(生田流箏曲)

千葉県出身。幼少より箏の手ほどきを祖母より受け、深海さとみに師事。2006年東京芸術大学卒業。卒業時にアカンリス音楽賞を受賞。皇居御楽室にて御前演奏をつとめる。2010年第16回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞。2013年第20回賢順記念くまもと全国邦楽コンクール賞。主な活動として、千葉県文化振興財団主催「第28回 若い芽のコンサート」にて、ソリストとしてニューフィルハーモニーオーケストラと共演。NHKテレビ「ラジオ出演。深海さとみCD(二曲一歌)★バンドCD「和楽器 DE MUSIC FOUNTAIN」(スマホアプリ iOS版「戦国Xクロス」)レコーディング参加。(公)日本三曲協会・富樫会・森の会・深海邦楽会会員、和楽器オーケストラあいおい、和楽団「団」メンバー。



花岡 操聖
(生田流箏曲)

東京都出身。3歳より箏の手ほどきを母より受け、8歳より箏・二十絃(1991年以降は二十五絃箏)を二代野坂操壽に師事。1998年より一年間、地則三絃を深海さとみに師事。2003年東京芸術大学卒業。在学中、宮城賞受賞。2007年桐朋学園芸術短期大学専攻科研究生修了。第2回東京邦楽コンクール、二十五絃箏独奏にて第三位。2012年度文化庁新進芸術家育成事業研究生として、地則三絃を人間国宝・富山清琴、発声・歌唱を山田流箏曲の岸辺美千賀に師事。これまでリリタルを2回開催。現在、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師、生田流箏曲松の実會師範。(公社)日本三曲協会、生田流協会、森の会、榎の響き会員、紅「KOU」メンバー。



荒井 美帆
(生田流箏曲)

東京都出身。7歳より箏・二十五絃箏・三絃を佐藤里美に師事。NHK邦楽技能者育成会第42期卒。和楽器・洋楽器はじみ演劇・ダンス等、様々な分野との表現活動を展開。篠塚睦也とのDUO活動にて第1回桂産音楽賞受賞。2008年第2回和の響グループコンテスト最優秀賞受賞。作曲では「野坂操壽×沢井一恵ふたりのマエストロ」の作品公募13位入賞し、全国ツアーにて演奏される。同年第2回等によるポップスコンクール優秀賞、第4回同コンクール家庭音楽会員受賞。主な活動として、NHK教育テレビ「芸能花舞台」他、メディア出演多数。自治体、文化庁主催の和楽器体験講座やワークショップの講師を務める等、和楽器の普及活動や後進の指導に力を入れている。生田流箏曲松の実會師範、東京都立晴海総合高校音楽科特別非常勤講師。



内藤 美和
(生田流箏曲)

埼玉県出身。6才より箏の手ほどきを母より受け、2006年桐朋学園芸術短期大学芸術科日本音楽専修卒業。同大学専攻科研究生、特別研究生修了。箏・十七絃、二十五絃箏を二代野坂操壽、酒田美智子に師事。2009年第6回東京邦楽コンクール第2位。2012年第7回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門第1位・日本ルーマニア音楽協会理事會賞受賞。現在、生田流箏曲松の実會師範、ヤマノミュージックサロン銀座店講師、(公社)日本三曲協会、生田流協会、早稲田音楽家協会、東京国際芸術協会、榎の響き会員、紅「KOU」、華ユニット「華紅歌」、和洋バンド「7月歌-TSUKUYOMI」、各メンバー。



吉澤 延隆
(生田流箏曲)

栃木県出身。7歳より和久文子のもとで箏を始める。2007年東海大学大学院芸術学研究科修士課程修了。在学中に文化庁新進芸術家国内研修制度研修員に採用。2008年第15回賢順記念全国邦楽コンクール最高位「賢順賞」受賞。2009年宇都宮市「うつのみや市民賞」受賞。主な活動として、2005年アジアの伝統音楽に關する国際会議とシンポジウムに参加し、韓国、中国、タイ、ベトナム、インド、カザフスタンの演奏家との合同公演実施。近年では、神奈川国際芸術フェスティバル、バダスフィールド現代音楽祭(イギリス)といった音楽祭での公演の他、来場者参加型コンサートの企画を行うなど、音楽の魅力を広げる活動を行っている。



マクイン時田 深山
(生田流箏曲)

オーストラリア、メルボルン生まれ。箏を小田村さつき、沢井一恵に師事。NHK邦楽技能者育成会第55期首席卒業。東京芸術大学音楽学研究科修士課程修了。オーストラリア各地でリサイタルを開催し、和洋・民族楽器と共演。Melbourne International Arts Festivalやシドニーオペラハウスなどで演奏。2008年に日本に活動の拠点を移し、現在、様々な現代音楽を演奏する他、自作曲や編曲、即興に取り組み、横浜インターナショナルスクールで箏を教え、学校公演を行い、今を生きる楽器としての箏の魅力を広げようとする。第7回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門1位受賞。明日新聞社、日本現代音楽協会主催現代音楽演奏コンクール「競奏X」第2位入賞。沢井琴曲院教師。



中島 裕康
(生田流箏曲)

茨城県出身。生田流箏曲、地唄三味線を樋口雅礼、浜根白香に師事。2012年東京芸術大学卒業。大学卒業時には皇居御楽室に御前演奏をつとめる。同年第38回茨城県新人演奏会新人賞受賞。2013年第20回賢順記念全国邦楽コンクール最高位「賢順賞」受賞。NHK Eテレ「にっぽんの芸能」、NHK-FM「邦楽のひととき」に独奏で出演。CD「葉田南雄とその時代 第二回」「都渡子がかぐや姫の世界へ四季」録音。伝統的な音楽に限らず、現代邦楽や新作の委嘱初演を多数務めながら「箏の音楽の真価」を探究する。正宗邦楽会師範(雅号 中島雅裕)、取手カルチャーセンター講師。森の会会員、同声会茨城県支部評議員、邦楽四重奏、アンリッパル室町、各メンバー。

●会場案内図

●お問い合わせ先
富山県高岡文化ホール

〒933-0055 高岡市巾着町13-1
TEL.0766-25-4141 FAX.0766-25-4332
URL: http://www.kenminkaikan.com/takabun/
e-mail: takabun@p1.coralnet.or.jp

※駐車場のご案内は限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



【平成26年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレットP1】



平成26年度 邦楽地域活性化事業 邦楽コンサート

箏のファンタジー

～新春に贈る和の響き～



Photo by Kayo TAKANO

平成27年 2月1日 [日]

富山県高岡文化ホール 大ホール 開演 14時 (開場 13時30分)

主催／(公財)富山県文化振興財団、(公財)高岡市民文化振興事業団
(公財)射水市文化振興財団、(公財)砺波市花と緑と文化の財団

共催／(一財)地域創造、富山県、高岡市、高岡市教育委員会、射水市
射水市教育委員会、砺波市、砺波市教育委員会、北日本新聞社

【平成26年度邦楽地域活性化事業 総括公演 パンフレットP4】

出演者プロフィール



黒川 真理
(生田流箏曲)

富山県出身。1999年東京芸術大学を経て同大学院修了。2002年文化庁新進芸術家国内研修員として人間国宝藤井久仁江に九州系地歌を師事。現在、深海さとみに師・三絳を師事。2006年「平成18年度北日本新州芸術選奨」受賞。2007年「とやま賞」受賞。2008年第14回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール「最優秀賞・文部科学大臣奨励賞」受賞。2008年度(公財)日本伝統文化財団主催第9回邦楽技能者新人オーディション合格、ピクチャーよりCD発売。主な活動として、2006年国立劇場主催「明日を担う新進の舞踊・邦楽鑑賞会」、2008年NHK教育テレビ「芸能花舞台今宵輝く若手たち」、2012年NHKテレビ「こぼん」の芸能に出演。その他、海外公演多数。黒川邦楽院学院長、生田流正派邦楽会大師範(雅号 雅道)。



平田 紀子
(生田流箏曲)

大阪府出身。深海さとみに師事。2004年東京芸術大学卒業。2008年宮城縣記念コンクール第1位受賞。2011年第16回賢碩記念くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞「賢碩賞」受賞。主な活動として、NHKテレビ「こぼん」の芸能「芸能花舞台」に独奏で出演。NHK「Eテレ」こぼんの芸能」テーマ音楽、NHKラジオ第一「新日曜名作選」劇中音楽などの録音に携わる。CD「合唱 harmonia ensemble 3rd」深海さとみ二曲一収、「唄唄根岸悦子V」などに参加。現在は「邦楽四重奏団」の他、日本作曲家協会の作曲家グループの作品発表会での演奏を行う他、並と並による「Duo Nano」を2013年ベルリンのコンサートで活動を始め、2015年より日本でのコンサートを開催予定。



石田 真奈美
(生田流箏曲)

千葉県出身。幼少より箏の手ほどきを祖母より受け、深海さとみに師事。2006年東京芸術大学卒業。卒業時にアカンサス音楽賞を受賞。皇居桃華楽室にて御前演奏をつとめる。2010年第16回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞。2013年第20回賢碩記念くまもと全国邦楽コンクール新賞。主な活動として、千葉県文化振興財団主催「第28回若い若手のコンサート」にて、ソリストとしてニューフィルハーモニーオーケストラ千葉と共演。NHKテレビ「ラジオ出演、深海さとみCD「二曲一収」、煌★バンドCD「和楽器 DE MUSIC FOUNTAIN」、スマホアプリ「iOS版」戦国X(クロス)・ルーディング参加。(公財)日本三曲協会「高城会」の会、深海邦楽会会員、和楽器オーケストラおひさし、和楽団「強」メンバー。



花岡 操聖
(生田流箏曲)

東京都出身。3歳より箏の手ほどきを母より受け、8歳より師・二十五絃(1991年以降は二十五絃箏)を二代野坂操壽に師事。1998年より一年間、地歌三絳を深海さとみに師事。2003年東京芸術大学卒業。在学中、宮城賞受賞。2007年桐朋学園芸術短期大学専攻科研究生修了。第2回東京邦楽コンクール、二十五絃箏独奏にて第二位。2012年度文化庁新進芸術家育成事業研修生として、地歌三絳を人間国宝・富山清峰、伴奏・歌謡を山田流箏曲の海辺美千鶴に師事。これまでにリサイタルを2回開催。現在、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師、生田流箏曲の会実務幹事、(公財)日本三曲協会、生田流協会、森の会、桐の響各会員、紅「KOU」メンバー。



荒井 美帆
(生田流箏曲)

東京都出身。7歳より箏・二十五絃・三絳を佐藤里美に師事。NHK邦楽技能者育成会第42期卒。和楽器・洋楽器はじめ演劇・ダンス等、様々な分野との表現活動を展開。麻生結結とのDUO活動にて第1回桂音音楽賞受賞。2008年第2回和の響グループコンテスト最優秀賞受賞。作曲では「野坂操壽×沢井一恵ふたりのマエストロ」の作品公募13位入賞し、全国ツアーにて演奏される。同年第3回響によるホップスコンクール優秀賞、第4回同コンクール家庭音楽会賞受賞。主な活動として、NHK教育テレビ「芸能花舞台」他、メディア出演多数。自治体、文化庁主催の和楽器体験講座やワークショップの講師を務める等、和楽器の普及活動や後進の指導に力を入れている。生田流箏曲の会実務幹事、東京都立瑞穂総合高校音楽科特別非常勤講師。



内藤 美和
(生田流箏曲)

埼玉県出身。6才より箏の手ほどきを母より受け、2006年桐朋学園芸術短期大学芸術科日本音楽専修卒業。同大学専攻科研究生、特別研究生修了。箏、十七絃、二十五絃箏を二代野坂操壽、滝田美智子に師事。2009年第6回東京邦楽コンクール第2位。2012年第7回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門第1位・日本ルーマニア音楽協会理事会賞受賞。現在、生田流箏曲の会実務幹事、ヤマノミュージックサロン銀座店講師、(公財)日本三曲協会、生田流協会、草加市演奏家協会、東京国際芸術協会、桐の響各会員、紅「KOU」、専二ネット「華紅苑」、和洋バンド「月詠-TSUKUYOMI」、各メンバー。



吉澤 延隆
(生田流箏曲)

栃木県出身。7歳より祖父久文のちもで箏を始め、2007年東海大学大学院芸術学研究科修士課程修了。在学中に文化庁新進芸術家国内研修制度研修員に採用。2008年第15回賢碩記念全国邦楽コンクール最優秀賞「賢碩賞」受賞。2009年宇都宮市「うつのみや市民賞」受賞。主な活動として、2005年アジアの伝統音楽に関する国際会議とシンポジウムに参加し、韓国、中国、タイ、ベトナム、インド、カザフスタンの演奏家との合同公演実施。近年では、神奈川県国際芸術フェスティバル、ハダスフィールド現代音楽祭(イギリス)といった音楽祭での公演の他、来場者参加型コンサートの企画を行うなど、楽器の魅力を伝える活動も行っている。



マクイン時田 深山
(生田流箏曲)

オーストラリア、メルボルン生まれ。箏を小田村さつき、沢井一恵に師事。NHK邦楽技能者育成会第55期首席卒業。東京芸術大学院音楽研究科修士課程修了。オーストラリア各地でリサイタルを開催し、和・洋・民族楽器と共演。Melbourne International Arts Festivalやシドニーオペラハウスなどで演奏。2008年に日本に活動の拠点を移し、現在、様々な現代音楽を演奏する他、自作曲や録音、即興(口取り)含む、横浜インターナショナルスクールで箏を教え、学校公演を行い、今を生きる楽器としての箏の魅力伝えようとする。第7回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門1位受賞。朝日新聞社、日本現代音楽協会主催現代音楽演奏コンクール(筑紫)第2位入賞。沢井由幸曲教師。



中島 裕康
(生田流箏曲)

茨城県出身。生田流箏曲、地歌三味線を精川雅礼、浜根由香に師事。2012年東京芸術大学卒業。大学卒業時は皇居桃華楽室にて御前演奏をつとめる。同年第38回茨城県新人演奏会新人賞受賞。2013年第20回賢碩記念くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞「賢碩賞」受賞。NHK「Eテレ」こぼんの芸能」、NHK-FM「邦楽のひととき」に箏独奏で出演。CD「樂田尚雄とその時代 第二期」邦楽子が歌う都向数の世界〜四季」録音。伝統的な音楽に限らず、現代邦楽や新作の委嘱初演を多数務めながら「箏の音楽の真髄」を追求する。正派邦楽会幹事(雅号中島雅裕)、取手カルチャーセンター講師、藤の会会員、同声会茨城県支部所属、邦楽四重奏団、アンサンブル室町、各メンバー。

富山県高岡文化ホール

〒933-0055 高岡市巾着町13-1 TEL.0766-25-4141 FAX.0766-25-4332
URL:http://www.kenminkaikan.com/takabun/ e-mail:takabun@p1.coralnet.or.jp

いざ 出陣 邦楽パフォーマー

昨夏、全国で活躍する箏曲演奏家9名が富山県に滞在し、邦楽の「魅力発信」のための手法を研鑽し、冬にかけて、砺波市、高岡市、射水市の小学校において音楽授業(アウトリーチ)やワークショップを行い、邦楽の魅力を県下に発信してきました。その集大成となる本公演は、演奏家が一堂に会し開催する華やかなコンサートです。古典の美しく幻想的な音色から現代の迫力あるサウンドまで、新春に贈る和の響きをご堪能ください。

第一部

らんびょうし
「蘭拍子」(杵屋正邦 作曲)
 箏／黒川 真理

杵屋正邦(1914-1996)は長唄の家に生まれ、戦前は長唄三味線奏者として活躍。1940年頃より作曲を始め、生涯に生み出した作品は千数百曲におよびます。この曲は1983年に作曲された箏の独奏曲で、通常「掛け声」を用いない生田流箏曲に、能楽囃子の掛け声を取り入れることで、箏曲の枠を超えた独特の緊張感を持たせています。作曲家自身、「箏曲には珍しい速度の急激な変化と、それに伴う呼吸や拍子の調整など、邦楽独自といわれる厳しい間取りを必要とする」(楽譜解説より)という難曲ですが、杵屋正邦独自の世界が構築された名作です。



「砺波市 出町小学校 アウトリーチの様子」

「THREE DANCES」 プリバド箏ヴァージョン(ジョン・ケージ作曲/沢井一恵編曲)
 十七絃／吉澤 延隆・マクイーン時田 深山・中島 裕康

ジョン・ケージ(1912-1992)は、20世紀におけるアメリカ実験音楽の第一人者として知られる作曲家です。彼は、その活動初期に金風ねじ、ゴム、木片などをピアノの弦に挿みこむ「プリバド・ピアノ」を考案しました。この曲は本来、そのプリバド・ピアノ2台のために、1945年に作曲された作品で、どこかバリ島のガムランやアフリカの親指ピアノのような音楽を感じさせる三楽章からなる作品です。今日は、プリバドした十七絃箏3面で一楽章を演奏します。



「射水市 東明小学校 アウトリーチの様子」

二十五絃箏曲
 びわごう はくきょい きょうなら
「琵琶行」白居易ノ興ニ效フ(伊福部昭 作曲)
 二十五絃箏／花岡 操聖

昨年、生誕100年を迎えた伊福部昭(1914-2006)最晩年の作品で、白居易(772-846)の長詩「琵琶行」を題材に、序破急の自由な三部形式で作曲されています。「琵琶行」の物語は、次のような内容です。
 “辺境の地、九江郡司馬に左遷されていた白居易は、秋のある夜、客人を送る船上で琵琶の音を聴く。奏するのはかつて都長安で屈指の琵琶奏者といわれた婦人であった。その音色に白居易の心は洗われ、更に一曲を所望する。琵琶の音は、この地に住まうようになった奏者自身の不遇を嘆き、一際激しく速やかにして悲、凄々たる案を奏で、弾き終われば白き秋月。奏者の思いを我が身に重ね、詩人の青い衣は涙に濡れる。”



「高岡市 定塚小学校 アウトリーチの様子」

箏・三絃・十七絃による
 しゅうちくばい
「松竹梅」(三つ橋勾当 原曲/深海さとみ 手付)
 箏／平田 紀子 三絃／黒川 真理 十七絃／石田 真奈美

この曲は、箏曲家の深海さとみが、三つ橋勾当による古典の名曲を、箏と三絃、十七絃のための三重奏曲にアレンジしたものです。原曲は、梅に鶯、松に鶴、竹に月というめでたい風物を取り合わせた歌詞で、それぞれが春、夏、秋を象徴しています。各季節の間にまとまった間奏(「手事」)が二つ入る構造です。深海さとみは「より重厚で華やかな合奏曲となるよう」、本来低音域として作られていた箏のパートを高音域に変え、新たに十七絃のパートを加えました。また、楽曲構成も春の部分を省略し、十七絃の独奏に続いて夏の部分から始まるように改め、後半の手事も途中を省略して秋を歌って終わるといったアレンジを行っています。



「砺波市 鷹栖小学校 アウトリーチの様子」

※「松竹梅」のパートは右記に変更。箏/石田真奈美 三絃/黒川真理 十七絃/平田紀子

第二部

二面の二十五絃箏と低音二十五絃箏のための

ていごがく

「鼎坐樂」(田中修一 作曲)

二十五絃箏／花岡 操聖・荒井 美帆

低音二十五絃箏／内藤 美和

田中修一(1966-)は、伊福部昭に師事していたことから、日本人の民族性を重視した繊細かつ力強い作風が特徴です。二十五絃箏と低音二十五絃箏三重奏の楽曲はまだ少なく、2008年に作曲されたこの曲は、この編成の代表曲ともいえます。鼎坐樂は「三人対座してなす樂」といった意です。曲は三楽章からなります。

第一楽章 Allegro

第二楽章 Canzonetta,Andante

第三楽章 Allegro vivace

「五節の舞」(沢井忠夫 作曲)

箏／マクイーン時田 深山 十七絃I／吉澤 延隆

十七絃II／中島 裕康

沢井忠夫(1937-1997)は、いわゆる「現代邦楽」の旗手として知られた箏曲家でもあります。楽器の特性を充分にいかした作品を数多く作曲し、その作品は流派や流儀によらず広く演奏されています。1984年に作曲されたこの曲は、宮中行事での「五節の舞」の故事における、幻想的な情景に思いを寄せて作曲されました。曲は、爆発的なエネルギーをもった十七絃箏の部分から、古典的な余韻を伴った箏の部分を経て、最終的に激しい舞踏へと展開していきます。



「高岡市 定塚小学校 アウトリーチの様子」



「射水市 塚原小学校 アウトリーチの様子」

出演者全員による合同演奏

富山県文化振興財団委嘱初演

「富山の旋律によるディベルティメント」(秋岸寛久 作曲)

箏I／黒川 真理・荒井 美帆・マクイーン時田 深山

箏II／花岡 操聖・石田 真奈美

箏III／平田 紀子・内藤 美和

十七絃／吉澤 延隆・中島 裕康

この曲は、本事業に際し、富山県文化振興財団が「富山にちなんだ箏の合奏曲」を作曲家の秋岸寛久氏に委嘱したもので、今回が委嘱初演となります。作曲家はこの曲について次のように解説しています。

「富山県の民謡から『こきりこ節』『越中おわら節』『麦屋節』の3曲を選び、その旋律をもとに、楽しいディベルティメントを構成しました。シンプルな『こきりこ節』は、その旋律を分解し、曲全体にわたって断片的に使用しました。ほかの2曲は元のメロディーを生かし、リズムを変えて遊んでみました。4パートの絡み合いと、迫力のあるサウンドによって、合奏の楽しさを感じていただけることと思います。」



■作曲家プロフィール

あきし ひろひさ
秋岸 寛久

助川敬弥、浦田健次郎、三木稔の各氏に師事。東京音楽大学卒業、同大学研究科を修了。日本フィル九州公演、横浜国立大学グリークラブ、NHK邦楽技能者育成会、オーストラリア、シュライニング音楽祭、オーケストラ・アジアなどからの委嘱や、先代市川猿之助スーパー歌舞伎の音楽、NHK伝統和楽団の編曲等を手がける。日本音楽集団団員。

平成26年度邦楽地域活性化事業 実施要綱

1 趣 旨

財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、地域における芸術活動を担う人材の育成及び環境づくり、並びに日本の伝統音楽（以下「邦楽」という。）の継承発展に寄与し、併せて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とし、都道府県等との共催により、公共ホール等を拠点とした、邦楽分野の演奏家（以下「演奏家」という。）による地域交流プログラム及び公演等に関する事業を実施する。

2 対象団体等

(1) 対象団体

対象団体は、都道府県等とする。

都道府県等とは、次の団体をいう。（以下「都道府県等」という。）

- ① 都道府県又は政令指定都市
- ② 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、都道府県又は政令指定都市の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益法人制度改革三法※による特例民法法人、公益財団法人等(②を除く。)のうち、都道府県又は政令指定都市が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

※「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

(2) 地域交流プログラム実施団体

- ① 対象団体が、都道府県及び都道府県に係る指定管理者等上記(1)の②又は③に該当する団体をいう。（以下同じ。）の場合は、管内の市町村等より地域交流プログラムを実施する団体（以下「実施団体」という。）を選定する（原則として3団体）。

市町村等とは、次の団体をいう。（以下「市町村等」という。）

ア 市区町村（政令指定都市を除く。）

イ 市区町村に係る指定管理者等

なお、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合等については、地域創造と協議するものとする。

- ② 対象団体が、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合、地域交流プログラムは当該政令指定都市又はその近隣の市区町村（それらに係る指定管理者等を含む）が実施するものとし、団体の選定については事前に地域創造と協議するものとする。

3 事業内容

(1) 研修プログラム

① 全体研修会

対象団体は、実施団体の職員を対象に、邦楽分野による地域交流プログラム及び公演の企画・制作に必要な実践的ノウハウを取得するための研修会を開催する（原則として1回）。

なお、当該研修会は、文化行政担当者や公共ホール職員、教育関係者等に広く公開する内容を含むものとし、邦楽事業に関する情報提供の機会とする。

② 手法開発研修会

対象団体は、地域創造と協力して、対象団体及び実施団体の職員並びに演奏家を対象に、地域交流プログラム等に関する手法開発を目的とする研修会を開催する（4日間の連続した日程で1回）。

また、対象団体は、当該研修会において対象団体が選定した学校でアウトリーチ実地研修を実施する。

(2) 地域交流プログラム

実施団体は、原則として3日間の連続した日程で次のプログラムを実施する。

また、実施団体は、地域交流プログラムの実施に向けて、演奏家、コーディネーター及び対象団体等による現地下見（個別研修）を実施する（原則として1回）。

① アウトリーチプログラム

学校等でのミニコンサート等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体4回）。

② ホールプログラム

公共ホール等において開催するコンサート又はワークショップ等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体1回）。

なお、ホールプログラムにおいてコンサートを行う場合は有料公演とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

(3) 総括公演プログラム

対象団体は、総括公演（ガラコンサート）を実施する（原則として1回）。

なお、総括公演は有料公演とし、入場料収入は対象団体に帰属するものとする。

4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。

ただし、下記以外の経費及び対象団体又は実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、対象団体又は実施団体の負担とする。

(1) 演奏家経費

事業参加に係る報酬（出演料、謝金等を含む）、交通費（現地移動費を除く）、宿泊費、日当及び損害保険料を負担する。

また、現地までの楽器運搬費について、演奏家からの請求に基づき、演奏家1名1回につき25,000円を限度として実費を負担する。

(2) 研修プログラム及び総括公演プログラム負担金

対象団体が支出した研修プログラム及び総括公演プログラム実施に係る経費のうち、別紙対象経費について、450,000円を限度として負担する。

(3) 地域交流プログラム負担金

実施団体が支出した地域交流プログラム実施に係る経費のうち、別紙対象経費について、1実施団体につき50,000円を限度として負担する。

なお、対象団体が都道府県及び都道府県に係る指定管理者等で、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合や、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合等については、地域創造と協議するものとする。

5 事業実施に対する支援

(1) チーフコーディネーターの派遣

地域創造は、主に対象団体に対して、演奏家の選定方法、事業計画の立案及び事業の円滑な運営に関する助言等を行うため、地域の芸術活動に詳しい専門家をチーフコーディネーターとして派遣する。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、主に実施団体に対して、事業担当者のコーディネート能力の向上及び地域交流プログラムのノウハウ蓄積に関する助言を行うとともに、演奏家に対して地域交流プログラム手法について助言を行うため、企画制作の経験が豊富な専門家をコーディネーターとして派遣する。

(3) アドバイザーの派遣

地域創造は、必要に応じて、対象団体の制作責任者（ディレクター）、チーフコーディネーター、コーディネーター及び演奏家に対し、企画内容についてより専門的な助言及び情報提供を行うため、企画内容に応じた専門家等をアドバイザーとして派遣する。

(4) 講師等の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修プログラム実施時に講師等を派遣する。

6 提出書類等

(1) 事業申込書（別記様式1-1～1-3）

平成26年度に本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成25年9月13日（金）までに提出すること。

なお、2(1)②及び③に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。

(2) 実施計画書、事業収支予算内訳（別記様式2-1～2-4）

本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、事業内容決定後すみやかに提出すること。

地域創造は、提出書類の内容を審査したうえで共催の可否を決定し、申請者に通知するものとする。

(3) 実績報告書、事業収支実績内訳、負担金請求書（別記様式3-1～3-5、4-1～4-2）

事業終了後30日以内に、別途指示する関係書類を添えて提出すること。

なお、別記様式3-2及び3-3については、公開されることを前提として、プログラムのテーマ、開発された手法など具体的にその成果を記入すること。

(4) 変更承認申請書（別記様式5-1～5-2）

共催決定通知を受けた後に申込み（申請）内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに変更承認申請書を提出すること。

なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

7 その他

(1) 演奏家の選定

対象団体は、地域創造の推薦する演奏家から事業に参加する演奏家を選定する（原則として3組、各3名まで）。

(2) 共催の表示

対象団体及び実施団体は、事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。

表示例については、対象団体に対して、地域創造より別途通知する。

(3) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

(4) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、対象団体の決定又は負担金の支払い等の審査並びに事業報告書の作成に当たって、必要な書類の提出を求めることができる。

(5) その他

事務手続き及びスケジュール等について必要がある場合は別途定める。

また、事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と対象団体が協議して決定する。

別紙

「4 経費負担」 対象経費一覧

(2) 研修プログラム及び総括公演プログラム負担金

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費・諸謝金	地域交流プログラム視察旅費、事業打合せ等旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	事業に係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

(3) 地域交流プログラム負担金

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費交通費	事業打合せ旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	地域交流プログラムに係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

平成26年度 邦楽地域活性化事業 報告書

発行：一般財団法人地域創造

〒107-0052

東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

TEL. 03-5573-4143

FAX. 03-5573-4060

URL. <http://www.jafra.or.jp/>

発行日：平成27年3月
